



文化財愛護
シンボルマーク

しょう ぶ おく 遺 跡
勝 負 奥 遺跡

2006年3月

松 江 市 教 育 委 員 会

財団法人松江市教育文化振興事業団



豎穴住居跡 (S1-01)



出土した石器

例　　言

1. 本書は、松江市教育委員会と財団法人松江市教育文化振興事業団が平成17年度に実施した集合住宅新築工事に伴う勝負奥遺跡発掘調査の報告書である。

2. 調査の組織は下記の通りである。

依頼者　目次　俊司

主体者　松江市教育委員会

事務局　松江市教育委員会　教育長　　山本　弘正（～H17.5.20）

　　　　　同　　福島　律子（H17.5.21～）

参事（兼文化財課長）　岡崎雄二郎

調査係長　　飯塚　康行

実施者　財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長　　松浦　正敬

専務理事　長野　正夫

事務局長　松浦　克司

調査係長　瀬古　諒子

嘱託員　　金坂　有史

3. 調査の実施及び報告書の作成にあたっては、下記の方々より多大なご指導、ご教示、ご協力をいたしました。記して感謝の意を表したい。（順不同）

原田敏照（島根県教育庁）、足立克己（同）、柳浦俊一（同）、丹羽野裕（同）、松尾充晶（同）、

稻田陽介（同）、目次俊司（土地所有者）

4. 調査参加者は下記の方々である。

[現地調査] 今岡靖夫、岩成博美、景山紀和、加藤恵治、瀬利　貢、土江直紀、時安順子、三島正美、渡部孝次

[遺物整理] 飯野正子、時安順子、松尾澄美

5. 本書挿図中の方位は磁北、レベルは海拔高である。

6. 本書で使用した遺構記号は、以下の通りである。

P…ピット、SI…竪穴住居跡、SX…用途不明土壙、SD…溝

7. 本書の作成には主に以下の者が携わった。

[遺物の実測] 廣濱貴子、善家幸子、高尾万里子、井上喜代女

[遺構・遺物の浄書] 時安順子、飯野正子、松尾澄美、北島和子

[写真撮影] 金坂有史、廣濱貴子、石川崇、瀬古諒子

[執筆・編集] 瀬古諒子

8. 出土遺物・実測図面・写真等は、松江市教育委員会で保管している。

本文目次

I 調査に至る経緯と経過	P 1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の概要	5
1. 調査区の設定と調査の経過	5
2. 土層の堆積状況	5
3. 検出した遺構と出土遺物	10
(1) 壴穴住居跡 (S I - 0 1)	10
(2) 用途不明土壙 (S X - 0 1)	15
4. 包含層の出土遺物	
(1) 土器・土製品	15
(2) 石器	22
IV 結び	27
遺物観察表	28



第1図 松江市位置図

挿図図版目次

第1図	松江市位置図	
第2図	勝負奥遺跡位置図	P 1
第3図	周辺の遺跡	3
第4図	調査前測量図	4
第5図	調査成果図	6
第6図	1区土層断面図	7
第7図	2区・2区拡張区実測図	9
第8図	S I - 0 1 実測図	11
第9図	S I - 0 1 遺物出土状況図	12
第10図	S I - 0 1 内出土遺物実測図	13
第11図	S I - 0 1 上層及び周辺出土遺物実測図	14
第12図	S X - 0 1 実測図	15
第13図	包含層（1区8層、2区7層）遺物出土状況図（土器・土製品）	16
第14図	1区包含層出土土器実測図（1）	17
第15図	1区包含層出土土器実測図（2）	18
第16図	2区・2区拡張区包含層出土土器実測図（1）	19
第17図	2区・2区拡張区包含層出土土器実測図（2）	20
第18図	2区・2区拡張区包含層出土土器実測図（3）	21
第19図	勝負奥遺跡包含層石器出土状況図	23
第20図	石器出土重量図	23
第21図	勝負奥遺跡包含層出土石器実測図（1）	24
第22図	勝負奥遺跡包含層出土石器実測図（2）	25
第23図	勝負奥遺跡包含層出土石器実測図（3）	26

写 真 図 版 目 次

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|---------------|
| 図版 1 | 調査前遠景 | 図版 16 | 2区・2区拡張区出土土器 |
| | 1区調査前 | 図版 17 | 2区・2区拡張区出土土器他 |
| 図版 2 | 1区調査後 | 図版 18 | 全区出土石器 |
| 図版 3 | S I - 0 1 全景 | | |
| 図版 4 | S I - 0 1 | | |
| | S I - 0 1 内堆積土層断面 | | |
| 図版 5 | S I - 0 1 中央ピットと溝 | | |
| | S I - 0 1 北壁際遺物出土状況 | | |
| | S I - 0 1 外周溝検出状況 | | |
| 図版 6 | S I - 0 1 外周溝完掘後 | | |
| | S I - 0 1 外周溝堆積土層断面 | | |
| 図版 7 | S I - 0 1 埋土中遺物出土状況 | | |
| | S I - 0 1 断ち割り後 | | |
| | 同上 土層断面 | | |
| 図版 8 | 1区南北土層断面 | | |
| | 1区南北畦中央付近土層断面 | | |
| | 1区東西畦西半土層断面 | | |
| 図版 9 | 1区東西土層断面 | | |
| | 1区南壁東半土層断面 | | |
| | 1区南壁西半土層断面 | | |
| 図版 10 | 1区黒色土除去後全景 | | |
| | 1区 S X - 0 1 | | |
| | 1区遺物出土状況 | | |
| 図版 11 | 2区調査前近景 | | |
| | 2区調査後 | | |
| 図版 12 | 2区北西壁土層断面 | | |
| | 2区拡張区黒色土除去後 | | |
| | 2区拡張区土器溜 | | |
| 図版 13 | 2区拡張区調査後 | | |
| | 2区拡張区北西壁土層断面 | | |
| 図版 14 | S I - 0 1 内・S I - 0 1 上層及び周辺出土遺物 | | |
| 図版 15 | 1区包含層出土土器 | | |

I 調査に至る経緯と経過

本遺跡は松江市南郊の乃白町字勝負奥 1013-1 に所在する。忌部川西岸の丘陵地から北東に下る狭い谷の斜面に位置し、現況は標高 9 ~ 20m の山林である。

集合住宅新築工事に伴い、平成 16 年 6 月 14 日松江市教育委員会が開発予定地の現地踏査を行ったところ、当該地付近が東向きの緩斜面であり、遺跡の存在が想定されたため、試掘調査を実施することになった。6 月 30 日、7 月 1、20 ~ 23 日に試掘調査を行ったところ、トレント 4ヶ所でピットや弥生土器片が発見されたため、これらのトレントを中心とした範囲に弥生時代の集落跡が存在する可能性が考えられた。当該地は字名から「勝負奥遺跡」と命名され、平成 17 年度において本調査を行うことになったものである。

発掘調査区域の大半を占める斜面上部を 1 区、斜面下部の小区域を 2 区として設定し、廃土処理の関係から 2 区から調査を開始した。当初の設定範囲は同月 15 日に終了した。遺構はなかったものの、土器溜りを含む弥生中期～後期の遺物包含層を検出したため松江市教育委員会の指導を受け、当初予定していなかった 2 区と 1 区の間をトレント状に拡張した。拡張区の調査は 4 月 15 日から 22 日まで行い、さらに 4 月 25 日から 1 区の調査に着手、竪穴住居跡と遺物包含層を検出した。6 月 20 日に島根県教育委員会の調査指導を受け、同 24 日に現地調査を終了した。調査に要した日数は合計 51 日である。



第2図 勝負奥遺跡位置図 (1/50,000)

II 遺跡の位置と歴史的環境

勝負奥遺跡（1）は松江市中心部の松江駅から南西へ約4キロの乃白町字勝負奥に所在し、花仙山から北東に派生した低丘陵の端から北東に降る狭い谷の斜面に立地している。丘陵の東側には乃木低地が南北に広がり、忌部川を隔てて田和山の独立丘陵が望まれる。忌部川は蛇行しつつ乃木低地を流れ下り、宍道湖に注いでいる。

周辺の遺跡を時代を追って概観してみると、旧石器・縄文時代の遺跡は少なく、廻田遺跡（15）で旧石器時代のナイフ形石器が出土しており、福富Ⅰ遺跡（22）では尖頭器が採集されているほか縄文の落とし穴状土壙が確認されている。縄文土器や石器は周辺の色々な遺跡で点々と出土しており、今後この時代の遺跡が発見される可能性は考えられる。

弥生時代の遺跡は田和山遺跡（27）、欠田遺跡（17）、友田遺跡（30）、門田遺跡（18）、雲垣遺跡（23）、布志名大谷Ⅲ遺跡（12）などである。田和山遺跡は前期末～中期末の環濠遺跡で、前期末には尾根を除く三方に濠を設け、中期には三重の環濠を廻らせており、狭い山頂部を中心に周辺地域の共同祭祀場として機能していた遺跡で、通常の環濠集落と違って環濠の外に集落をもつその特異性から国史跡に指定された遺跡である。欠田遺跡は弥生前期から古墳前期の土器や石器などの遺物を多く出土した遺跡としてよく知られており、友田遺跡は前期～中期の土壙墓群、中期の墳丘墓群、後期前半の四隅突出墳丘墓が検出された遺跡で、田和山遺跡との関連で注目される。門田遺跡は中期～後期の土器類と水路跡を検出、雲垣遺跡は前期～中期の土器と木鎌、田下駄などの木製品を出土、他に福富Ⅰ遺跡1区、薬師前遺跡（25）、袋尻遺跡群（42）中の袋尻A遺跡、二ツ縄手遺跡（28）など弥生時代の遺物を出土した遺跡は数多くある。布志名大谷Ⅲ遺跡では四隅突出墳丘墓群が発見された。集落跡としては後期初頭の竪穴住居跡の見つかった向山西遺跡（52）、後期後半の竪穴住居跡で知られる廻田遺跡、標高44mの尾根に5棟の竪穴住居跡を構えた福富Ⅰ遺跡5区をはじめ、同遺跡2区、7区、8区でも後期後半の竪穴住居跡が検出されている。

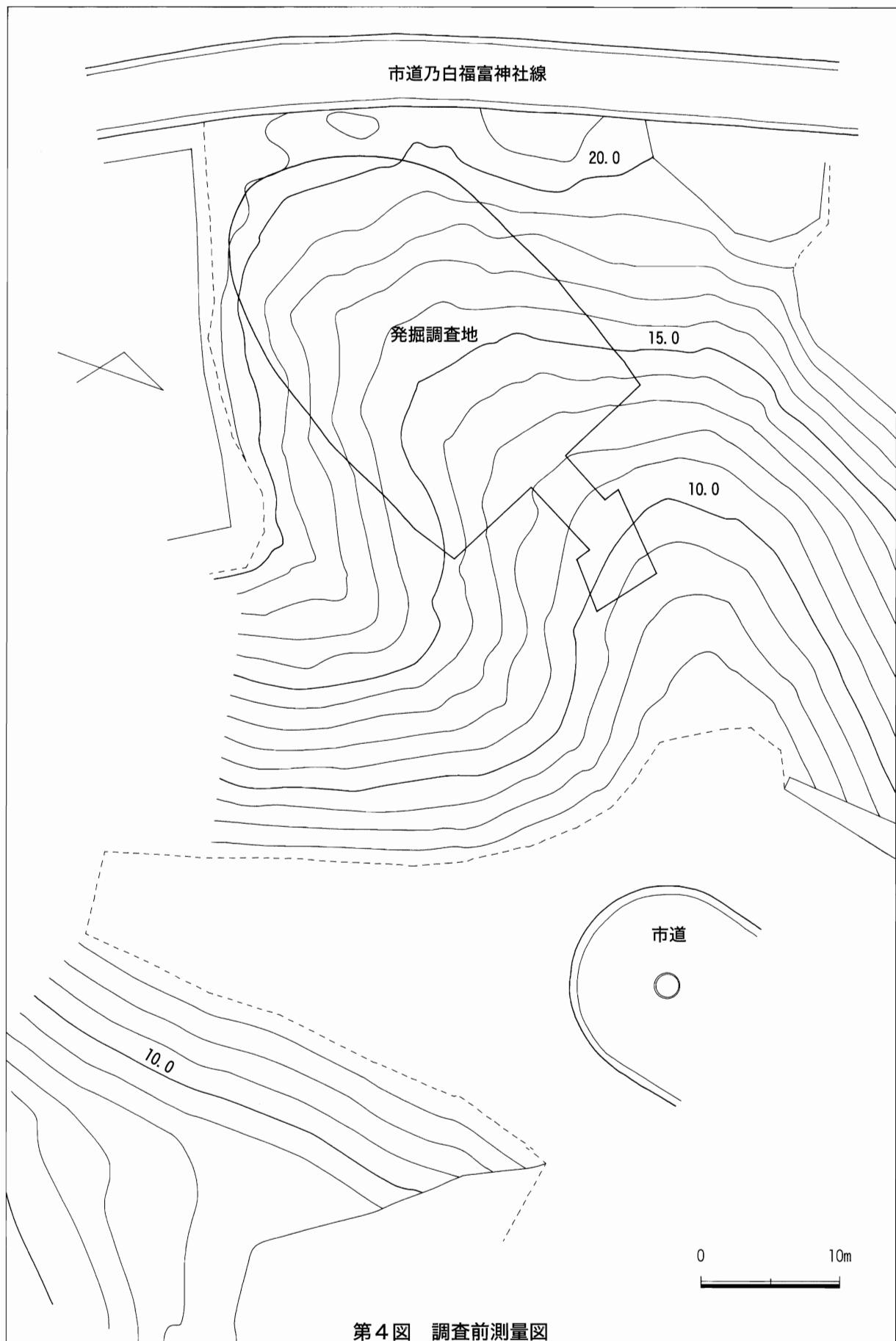
古墳時代になると前期古墳として袋尻遺跡群中の袋尻4、7、8号墳などが築かれ、近くの袋尻B遺跡では前期の竪穴住居跡が見つかっている。中期には全長61.4mの大角山1号墳を中心とした大角山古墳群（9）、組合せ石棺や子持勾玉を持つ二名留古墳群（14）、奥山古墳群（36）、初期須恵器を出した長砂古墳群（35）、向原古墳群（29）などが築かれる。後期古墳には乃木二子塚（33）、田和山1号墳（26）、岩屋口古墳（6）などがあり、横穴墓には奥山遺跡（37）、菅沢谷横穴墓群（41）、袋尻横穴墓群、弥陀原横穴墓群（5）、松本横穴墓群（7）などがある。古墳時代中期には花仙山から産出するめのうや碧玉を使って、大角山遺跡（10）、福富Ⅰ遺跡、乃白権現遺跡、田和山A遺跡などで玉生産が行われている。また布志名大谷Ⅱ遺跡（13）では製鉄用の横口付炭窯跡が発見されている。

奈良時代以降の遺跡としては古代山陰道の推定ルート上で道路遺構の見つかった松本古墳群（8）、松本修法壇跡（4）、袋尻C遺跡の古墓群などがある。



- | | | | |
|----------------|------------|------------|--------------|
| 1. 勝負奥遺跡 | 14. 二名留古墳群 | 27. 田和山遺跡 | 40. 野向古墳 |
| 2. 乃白権現遺跡 | 15. 回田遺跡 | 28. ニツ縄手遺跡 | 41. 菅沢横穴墓群 |
| 3. 勝負回古墳群・横穴墓群 | 16. 神立遺跡 | 29. 向原古墳群 | 42. 袋尻遺跡群 |
| 4. 松本修法壇跡 | 17. 欠田遺跡 | 30. 友田遺跡 | 43. 大久保遺跡 |
| 5. 弥陀原横穴墓群 | 18. 門田遺跡 | 31. 南友田遺跡 | 44. 小倉見谷横穴墓群 |
| 6. 岩屋口古墳 | 19. 屋形遺跡 | 32. 二子塚古墳 | 45. 勝負谷古墳群 |
| 7. 松本横穴墓群 | 20. 蓮華垣遺跡 | 33. 乃木二子塚 | 46. 深田遺跡 |
| 8. 松本古墳群 | 21. 乃白玉作跡 | 34. 下沢遺跡 | 47. 勝負谷遺跡 |
| 9. 大角山古墳群 | 22. 福富Ⅰ遺跡 | 35. 長砂古墳群 | 48. 挟松遺跡 |
| 10. 大角山遺跡 | 23. 雲垣遺跡 | 36. 奥山古墳群 | 49. 渋ヶ谷遺跡 |
| 11. 布志名大谷Ⅰ遺跡 | 24. 野白遺跡 | 37. 奥山遺跡 | 50. 神田遺跡 |
| 12. 布志名大谷Ⅲ遺跡 | 25. 薬師前遺跡 | 38. 大久保古墳群 | 51. 矢の原遺跡 |
| 13. 布志名大谷Ⅱ遺跡 | 26. 田和山古墳群 | 39. 菅沢遺跡 | 52. 向山西遺跡 |

第3図 周辺の遺跡 (1 : 25,000)



III 調査の概要

1. 調査区の設定と調査の経過

集落が存在する可能性のある谷上部約500m²を1区とし、遺物包含層のみと推定される谷下部約20m²を2区とした。

試掘調査の結果により表土及び無遺物層の排土が莫大になることが予想され、しかも上部が広く下部が狭い谷地形の中で排土の処理をしなければならなかつたことから、排土置き場確保のため、まず2区から調査を開始した。

2区の調査では、南壁の旧表土下にピット状の落ち込みが見られ、またその基盤になった土層から弥生土器の出土があつたことから、さらに南側谷上部の1区境界線まで拡張し、2区拡張区とした。

2区拡張区の旧表土下で精査を行い、数穴の落ち込みを検出したがその形状から根穴であると判断されたためさらに下層を掘り下げたところ、弥生中期と後期の土器が混在した土器溜りのほか、黒曜石の剥片がかなり出土した。出土遺物は2区と2区拡張区を合わせてコンテナ約3箱分であった。

1区の調査では、表土と暗赤褐色の盛土を重機で除去した後、5m²方眼のグリッドを設定し、谷上部から下部に向かって順次調査を行い、竪穴住居跡1棟(SI-01)と用途不明土壙1基(SX-01)、谷底に堆積した遺物包含層からコンテナ8箱分の土器と石器類を検出した。

以下、調査区の基本堆積、検出した遺構、包含層の出土遺物の順に記述する。

2. 土層の堆積状況

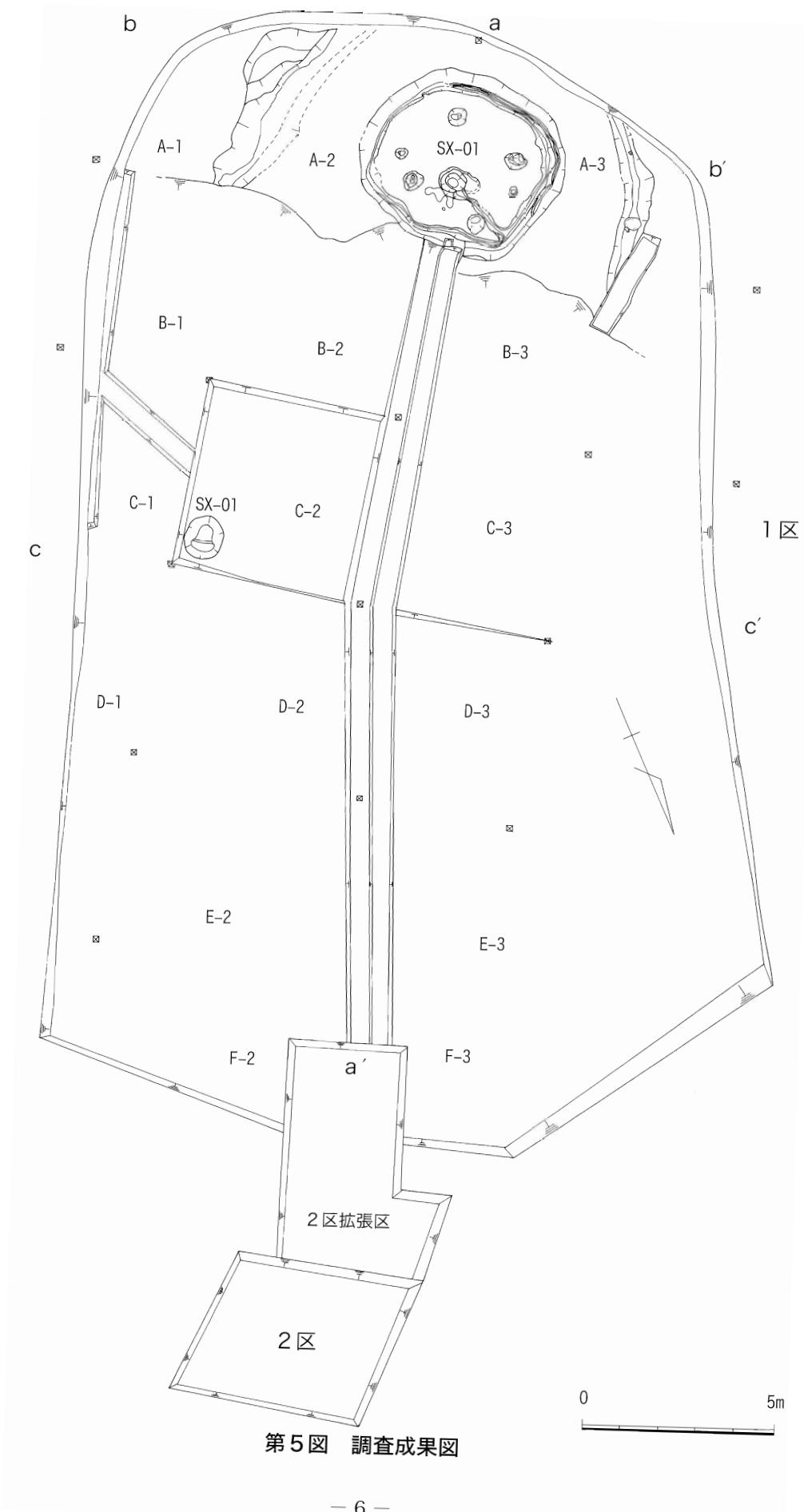
1区2区とも現表土(第1層)の下には1m近い厚みを持つ暗赤褐色土(第2層)の堆積があり、後世に上部から入った盛土と考えられるもので、遺物はまったく含んでいなかった。

第2層暗赤褐色土の下は旧表土の暗灰～黒色土(1区-第4層、2区-第3層)で10～20cm堆積し、若干の須恵器片、かなり摩滅した多くの弥生土器片、黒曜石製遺物や剥片などを含んでいた。

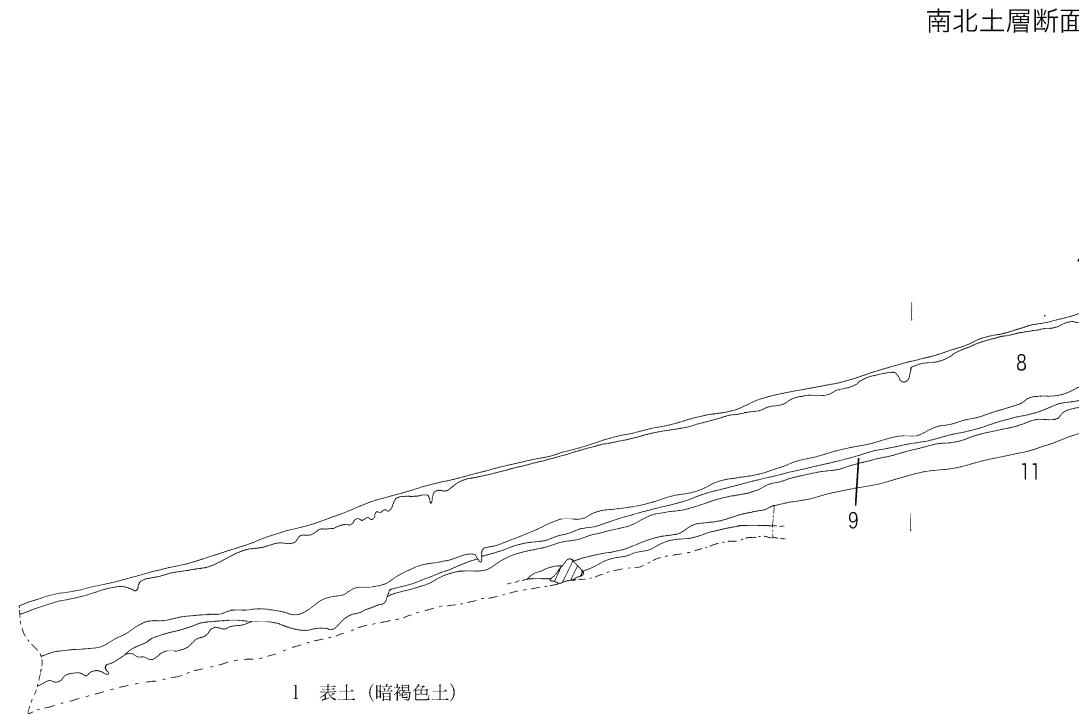
旧表土の下は北西側斜面、南東側斜面では地山となり、遺構、遺物ともなかつたが、中央部の谷筋には厚い堆積土が見られた。1区第8層、2区第7層はにぶい黄褐色に褐色の斑紋(マンガンの沈着によるものか)の入つた土層で、約80cm前後の厚い堆積があり、1区では弥生後期の甕、壺、高壺、器台等の土器片を中心として、縄文土器数片、黒曜石の石鏸、スクレイパー、剥片、安山岩の石鏸等が出土し、小さな炭をまばらに含んでいた。2区の同一層では弥生後期だけでなく弥生中期の土器片も出土している。

1区第8'層は第8層と同色調であるが粘質を帶びた厚み10cm程の堆積土で、遺物や炭の含み具合は8層よりも少なかつた。2区では8'層にあたる土層は検出していない。

第9層は褐色系統の粘質土層で10～20cmの厚みがあり、若干の炭を含むが遺物は出土しなかつた。9層下の第11層は黒褐色の粘質土で30～40cmの厚みを持ち、遺物はもちろん炭も含んでいなかつたため、非常に古い時期の堆積と判断して中央トレンチと一部のグリッドの掘削にとどめた。



a $\frac{1}{N}$



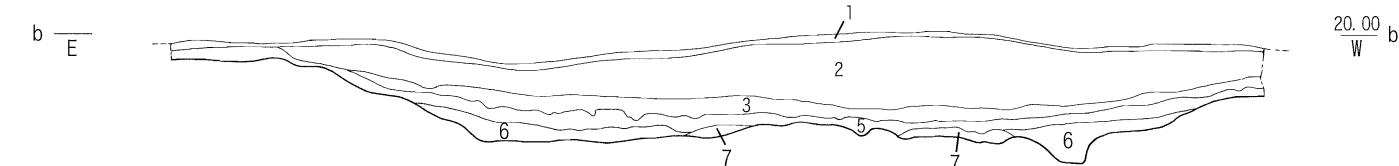
- 1 表土 (暗褐色土)
- 2 赤褐色土
- 3 鈍い赤褐色土
- 4 暗灰～黒色土 (旧表土)
- 5 SI-01 埋土
- 6 明黄褐色土 (炭を含み、軟らかい、外周溝埋土)
- 7 明黄褐色土 (6層よりやや明るい、炭を含む)
- 8 鈍い黄褐色土 (褐色斑紋入り)
- 8' 鈍い黄褐色粘質土 (褐色斑紋入り)
- 9 褐色粘質土
- 10 黄褐色土 (1～2cmの黄白色ブロックを含む)
- 11 黒褐色粘質土
- 12 明黄褐色土 (1～2cmの黄白色ブロックを多く含む)

c — E

b — E

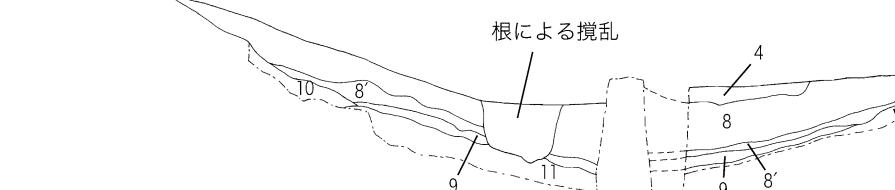
20.00 a

南壁土層断面



20.00 c'

中央東西土層断面

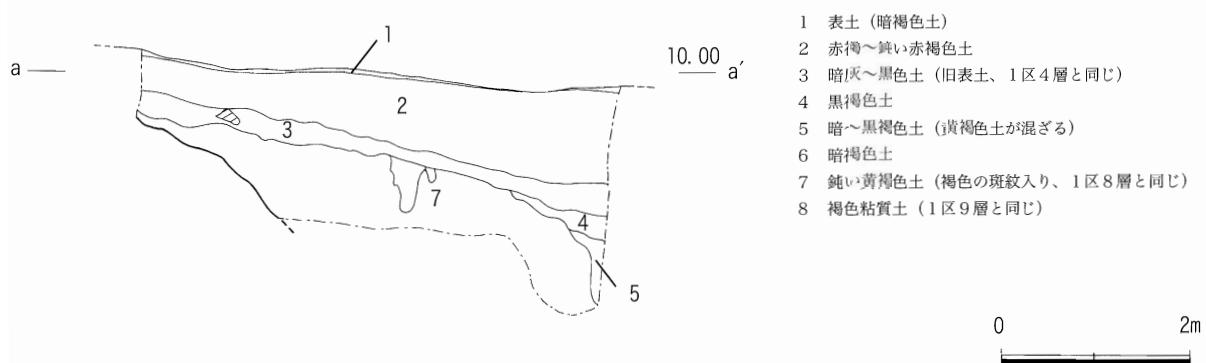
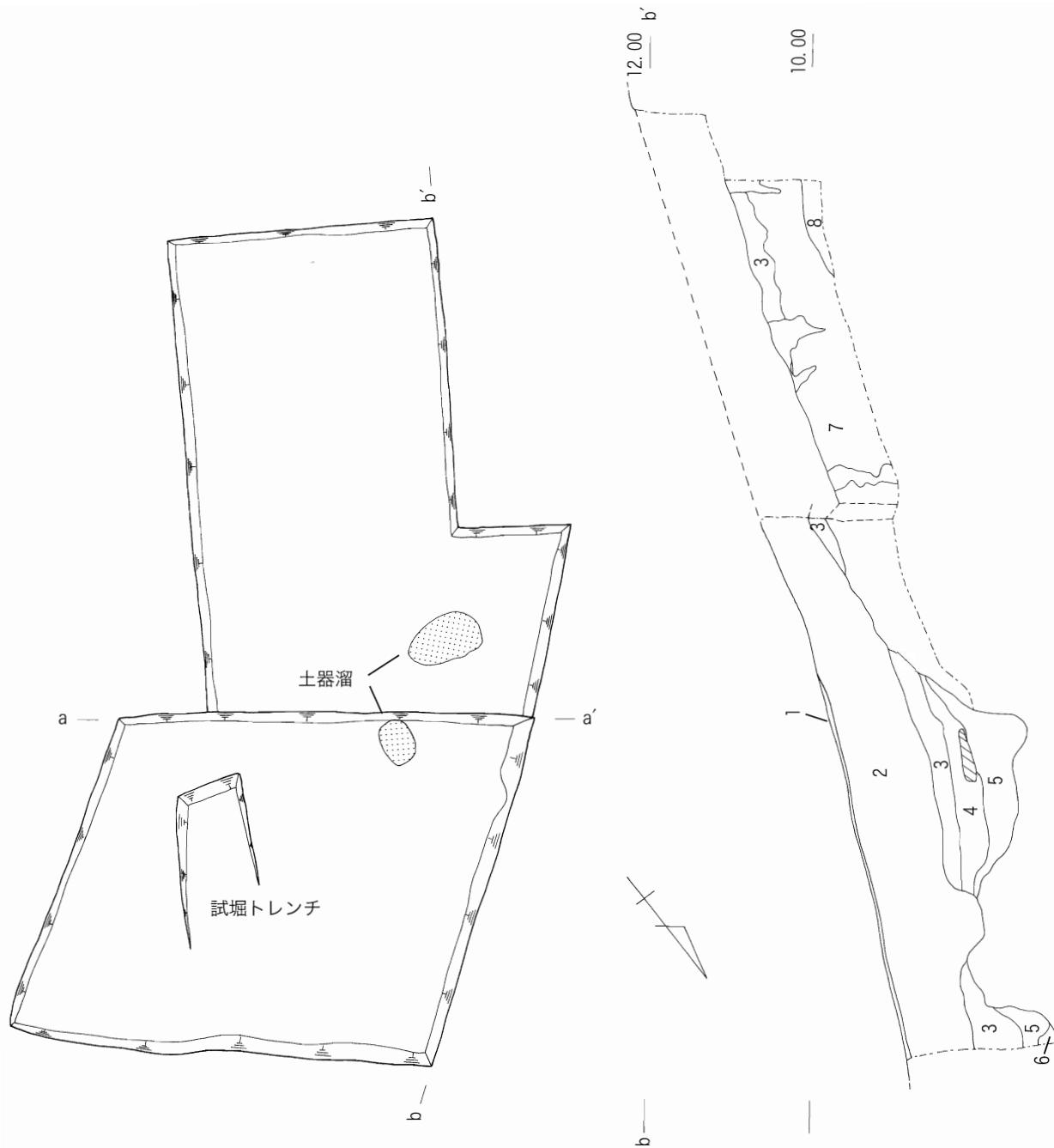


1区 土層断面

0 5m

第6図 1区土層断面図

- 7 ~ 8 -



第7図 2区・2区拡張区実測図

3. 検出した遺構と出土遺物

(1) 壁穴住居跡 (S I - 0 1)

位置・規模・形態 1区南端で検出した隅丸方形の住居跡である。大きさは検出面で 4.4×5.0 m、壁体溝内側で 3.6×4.0 m を測る。周壁は床面から最大高 60cm が残存し、壁体の直下には壁体溝が巡っている。丘陵端の傾斜地に堆積した第 6 図の第 8 層と 8' 層及び地山の一部を掘り窪め、主に谷側に第 8 図の第 11 層を盛土して床面を作っている。床面の標高は 17.60 ~ 17.70 m を測る。

覆土 旧表土の黒褐色土を取り除くと山側は明赤褐色粘質土の地山であり、住居跡の覆土である炭を含む黄褐色土（第 2 層）が見分けられた。第 3 層は第 2 層より明るめの黄褐色土が床面上まで 15 ~ 20cm の厚みで堆積し、山側の壁際には第 4 層の明褐色土が堆積していた。第 5 層は第 4 層より明るめの明褐色土で壁体溝を覆った土層である。

柱穴 主柱穴は 4 本あり、掘り方の大きさは上端で 40 ~ 50cm、深さは 50 ~ 70cm、柱痕跡は約 15 cm 大である。主柱穴以外に径 20 ~ 25cm、深さ約 15 cm のピット 2 穴があったが、どう使われたものかわからなかった。

中央ピット 床面のやや北東寄りに位置し、北側の壁体溝から分かれた溝とつながっている。大きさは上端で 0.8 ~ 1m、深さは 55 cm ある。上端近くで二段に掘り込まれていて、蓋をしていたことがうかがわれる。このピットの縁から東側にかけてわずかな炭の広がりが認められた。

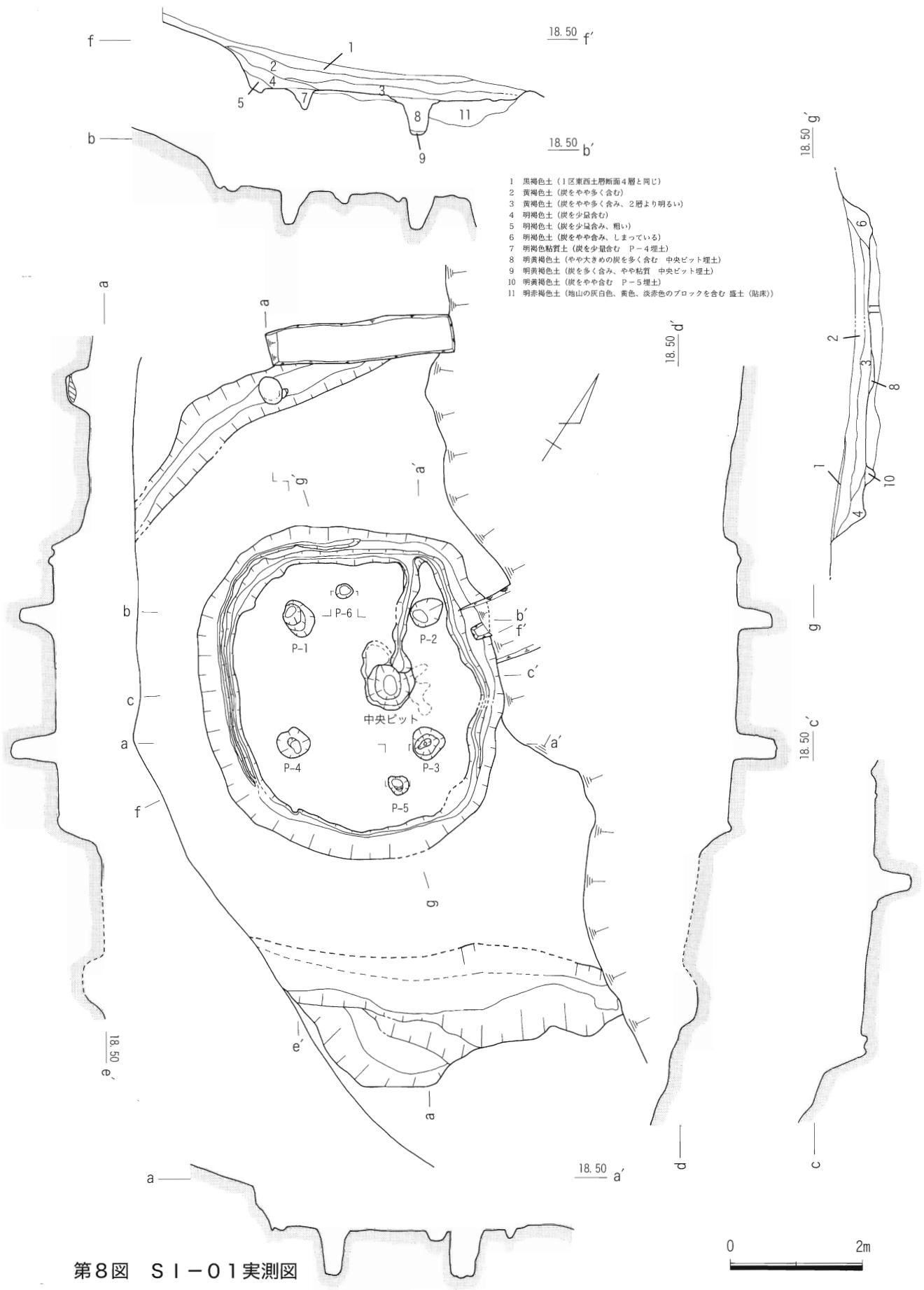
壁体溝 壁体溝は北西部で二重になっているが、外側は深さが一様でなく両端で浅くなつて途切れている。また両方の溝の埋土に切り合いが見られず同時に存在したと見られることから壁体溝の本体は内側であり、外側は別の用途を考えたほうがよさそうである。

外周溝 住居跡の山側を取り巻く 1.3 ~ 2.6 m 離れた北西側と南東側で検出した。道路に近接していたため西側は未調査であるが両者はつながっているものと推測される。北西側は大変残りがよく、幅 40 ~ 80cm、深さ 30 ~ 40cm で断面 U 字状を呈する。溝底には炭を多く含んだ層が堆積していた。

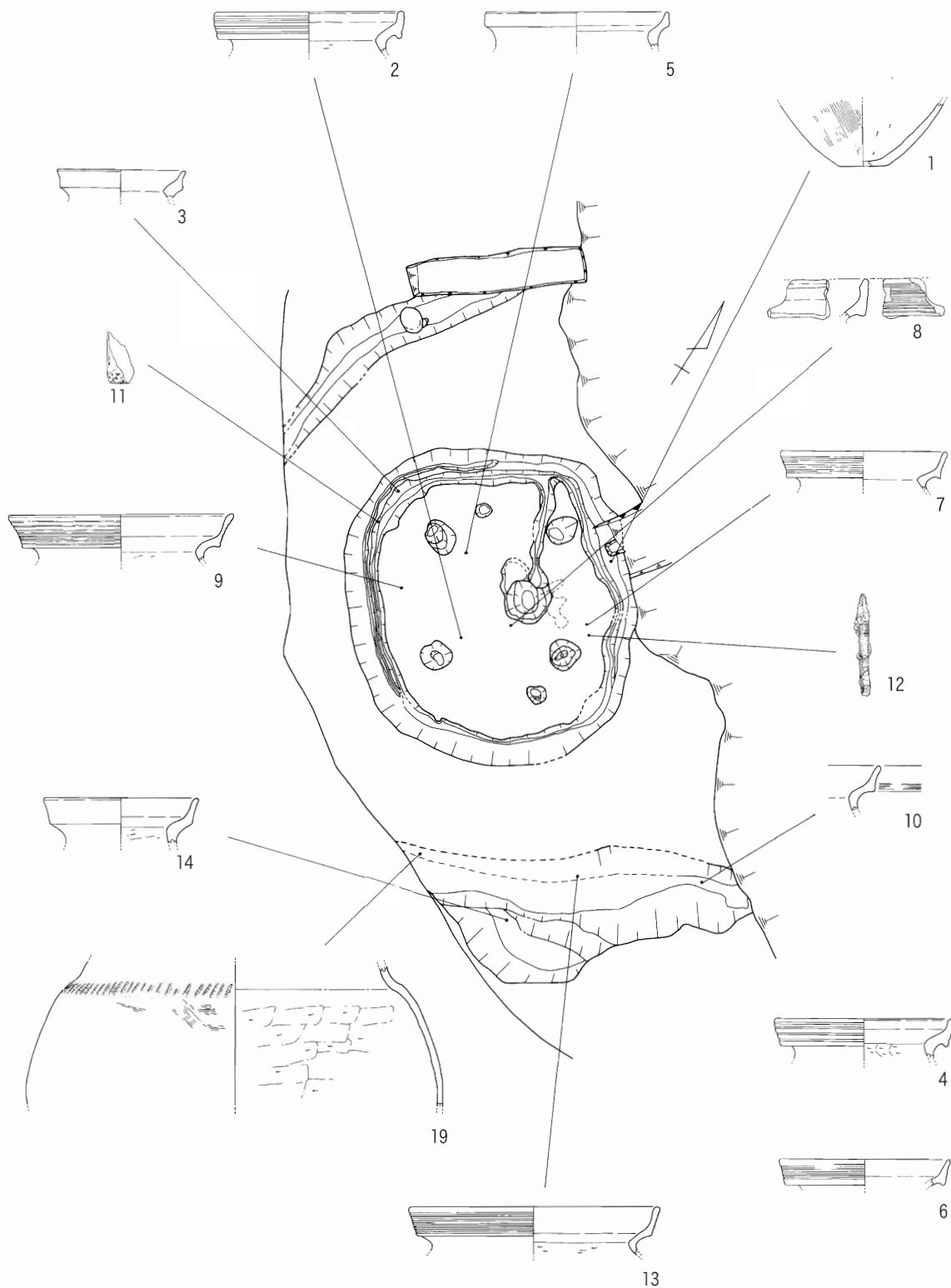
遺物出土状況 床面の出土遺物は平底土器の底部～胴下部の破片（第 10 図-1）のみであった。第 8 図の覆土第 2 層、第 3 層から複合口縁の甕片数点（2 ~ 7、9）、高坏片（8）、蛤刃石斧（11）、鉈（12）が出土した。また南側外周溝の底面近くから 10 の甕片が出土した。

出土遺物 第 10 図 1 は平底の底部片で外面はハケ目、内面はヘラケズリが施される。2 と 4 は同一個体と考えられるもので、複合口縁の外面に 4 条の凹線文が施されている。3、5 は口縁部が無文のもの、6、7、9、10 は二枚貝の腹縁による擬凹線文が施されている。8 の高坏片は施文原体がよくわからない。11 は角張った蛤刃石斧、12 は鉈である。鉈は刃部が断面 V 字形で鍔状に広がり鍔は鋸びてはいるが明瞭である。身部は断面矩形で厚みがある。身の基部側端は生きており、端部近くに円孔が X 線写真で観察できる。柄部の木質は残りが良く、着装状態が観察できる。柄は上面からかぶせられ下面は身の鉄地が露出している。X 線写真によると下面に柄巻きの繊維紐が残存しているのが見える。

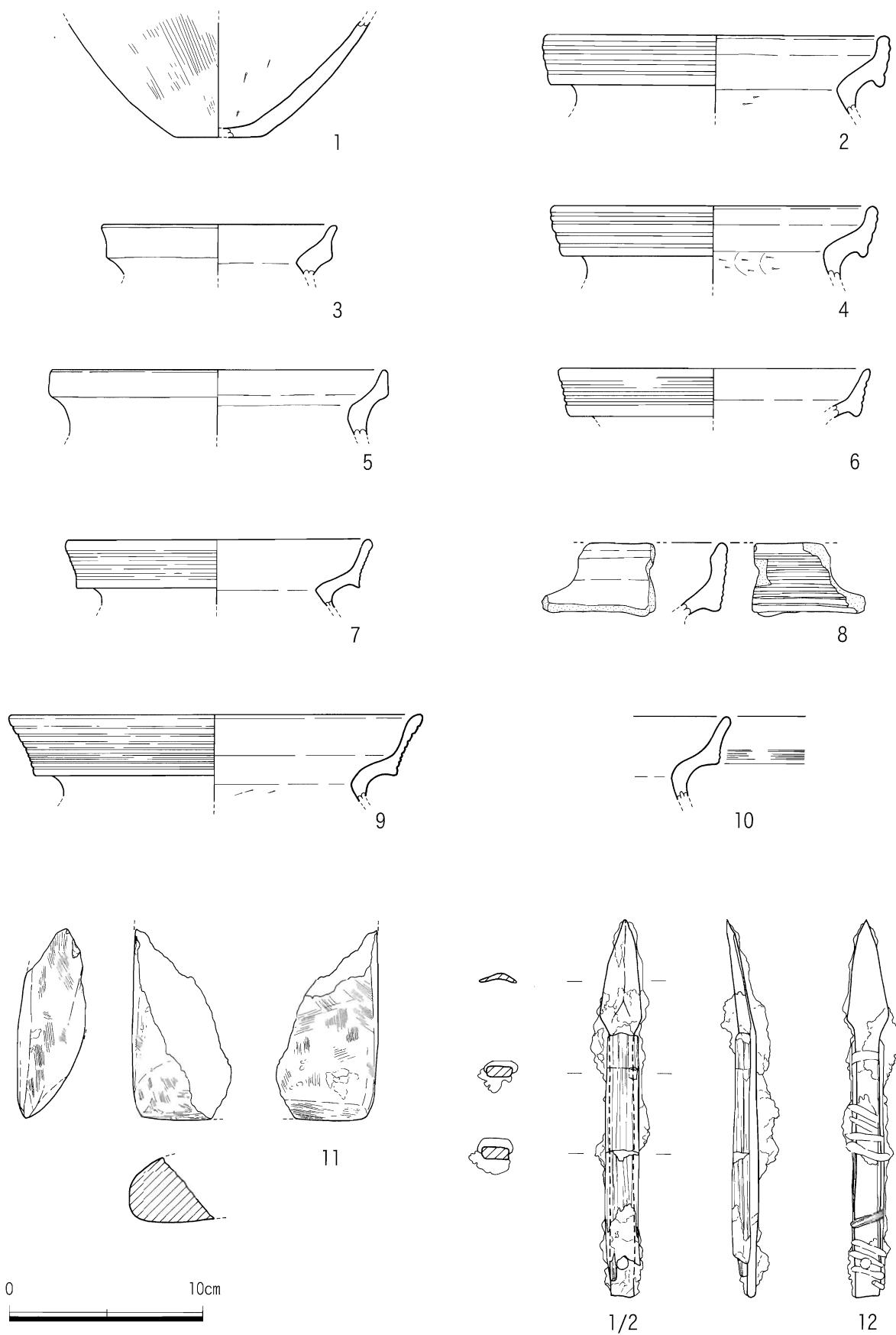
第 11 図は S I - 0 1 の周辺及び上層黒色土の出土遺物である。13 ~ 17 は複合口縁の甕で、13、15 はハケ状工具により、16 は二枚貝により擬凹線文が施される。14、17 は無文である。18 は器種がはつ



第8図 S I - 01 実測図



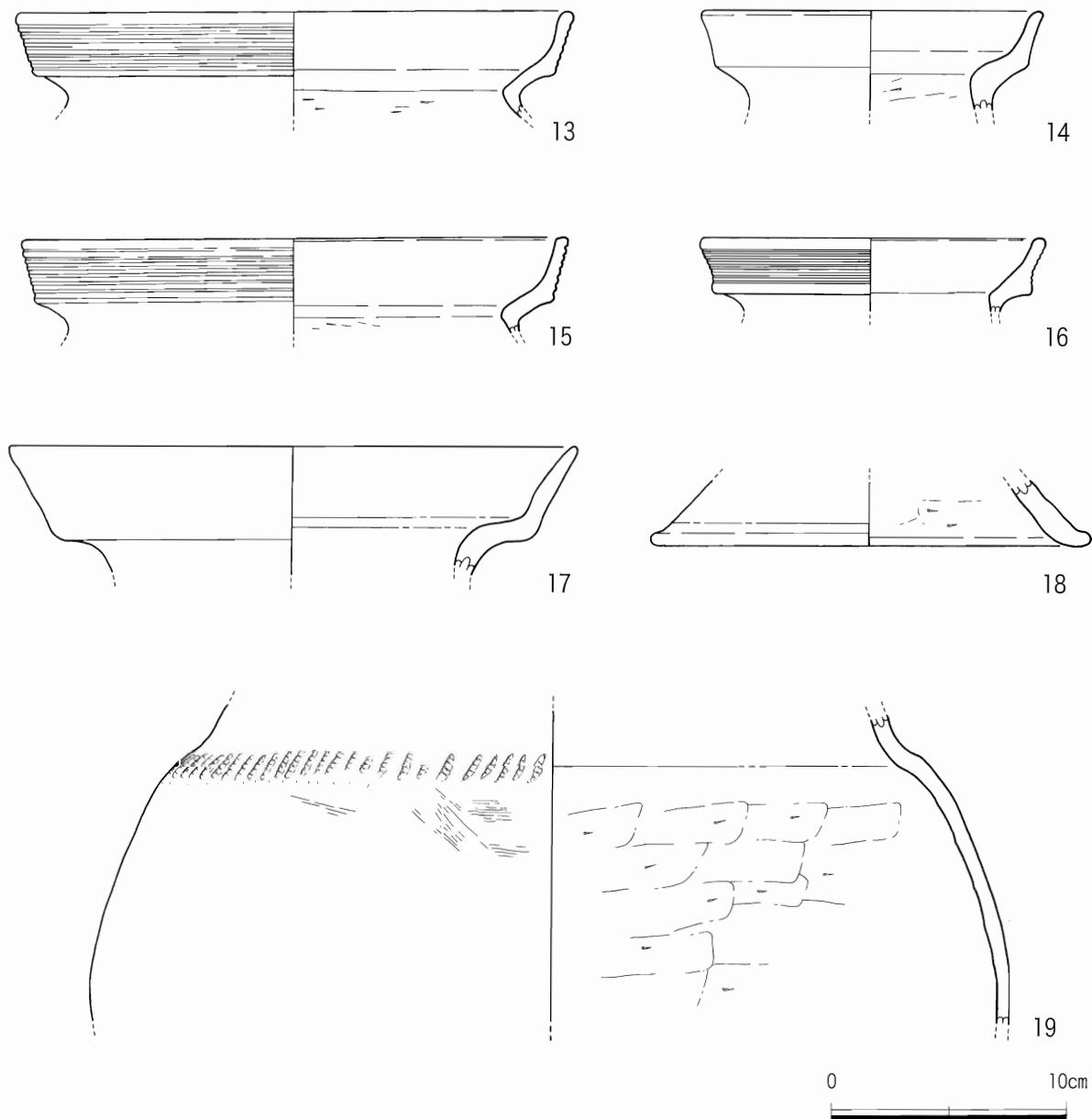
第9図 S1-O1 遺物出土状況図



第10図 SI-01内出土遺物実測図

きりしないが脚部または台部と考えられるもので、外面はナデ、内面はヘラケズリが施されている。

時期 覆土中から出土した土器は若干古相を示すものも含むものの、おおむねV-2様式にあたると考えられる。これらは住居廃絶後に周辺から入り込んだものである。一方この住居跡の基盤になっている第8層にぶい黄褐色土は住居跡下方の谷部に厚く堆積しており、その土層上部から出土した土器もやはりV-2様式のものであることから、この住居の営まれた時期は弥生後期の中葉頃と考えることができよう。



第11図 SI-01上層及び周辺出土遺物実測図

(2) 用途不明土壙 (S X - 0 1)

南東側斜面の地山から第5層面にかけて検出した直径1~1.1m、深さ30~70cmの落ち込みである。埋土中には土器の小片と炭を含んでいた。ここでは遺構として扱ったが用途不明であり、根による搅乱の可能性も考えられる。

4. 包含層の出土遺物

谷部1区の遺物包含層は第4層の黒褐色土と第8層の鈍い黄褐色土（褐色の斑文入り）と8'層の鈍い黄褐色粘質土の3層である。第4層は現表土下の盛土（赤褐色土）堆積以前の旧表土である。出土遺物は縄文土器、弥生土器、須恵器などの土器類、黒曜石剥片などである。第8層は第4層の下に厚く堆積した土層で、出土遺物は縄文土器、弥生土器、石鏃他の石器があるが、土器類の大半は同層上半から出土し、下半ではあまり出土していない。黒曜石製の石鏃や剥片はまんべんなく出土した。8'層の出土遺物は黒曜石片が若干出土しただけである。

谷部2区・2区拡張区の遺物包含層も基本的には1区とかわりがなく、旧表土にあたるのが第3層で、第8層にあたるのが第7層である。出土遺物の種類も同様であった。

(1) 土器・土製品

1区と2区・2区拡張区に分けて記述する。

① 1区出土の土器・土製品

第14図20~24は第8層鈍い黄褐色土（褐色斑文入り）の出土遺物、同図25~33及び第15図は第4層黒褐色土中の出土遺物である。

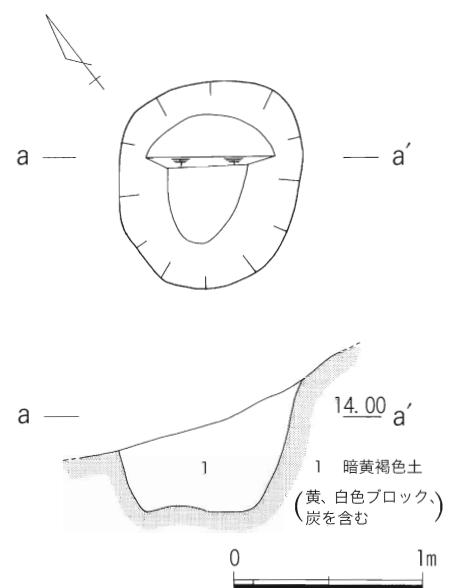
縄文土器 いずれも小片である。第14図24はやや上げ底の底部片、25は磨り消し縄文の深鉢口縁部、26はナデを施した粗製深鉢口縁部である。

弥生土器 20は口縁端面に凹線文を施した壺、21は外面にハケ状工具原体による擬凹線文を施す高壇である。22、27~33は複合口縁の甕である。22、28、31は二枚貝腹縁による擬凹線文、27はヘラによる細い平行沈線文を施すもの、29、30、32、33は無文のものである。23は器台の脚部で二枚貝により施文されている。

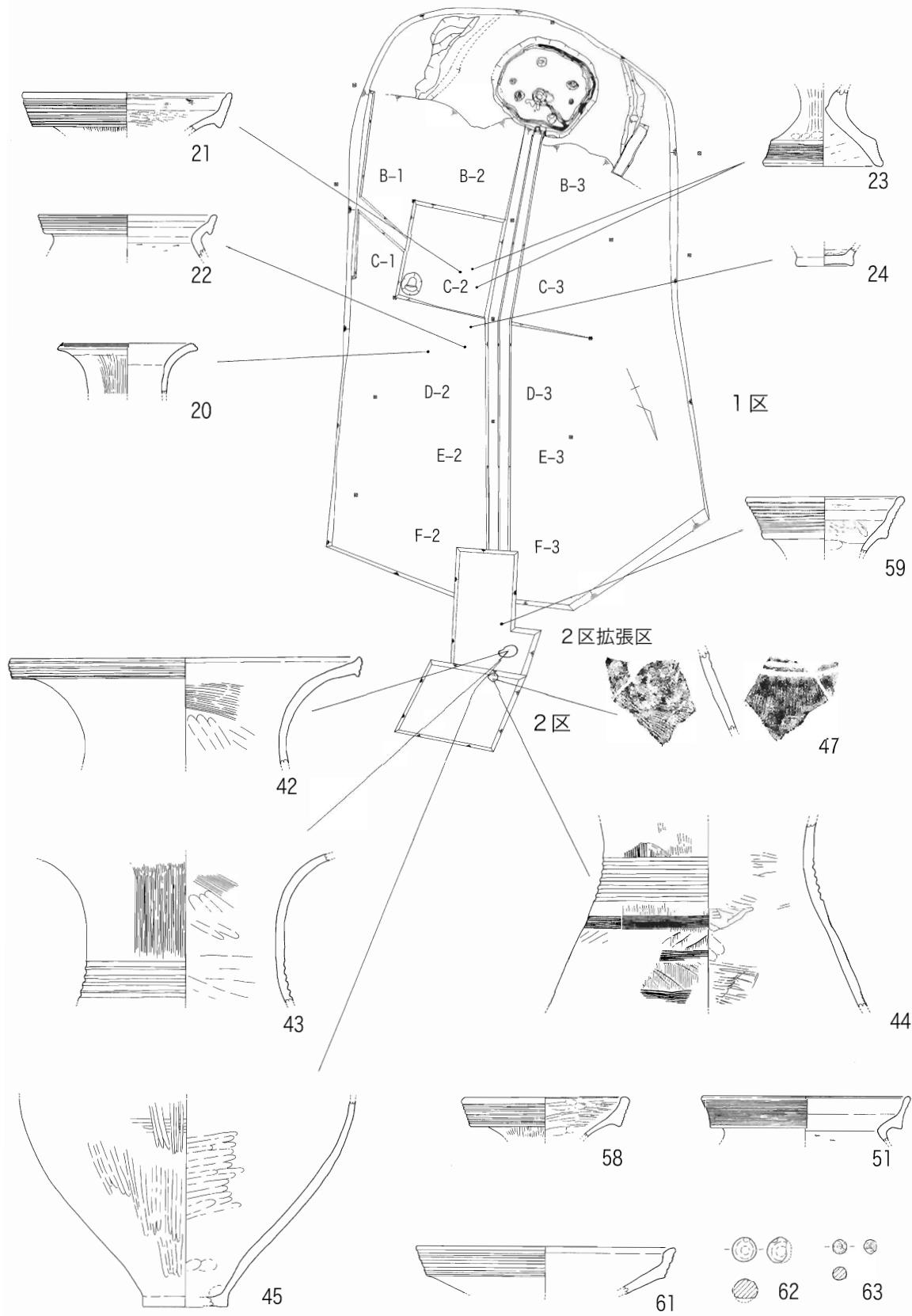
須恵器 第15図34~41は外面平行叩き、内面同心円当て具痕のある甕片である。叩きや当て具痕は古墳時代後期以降に見られるものである。

② 2区・拡張区出土の土器・土製品

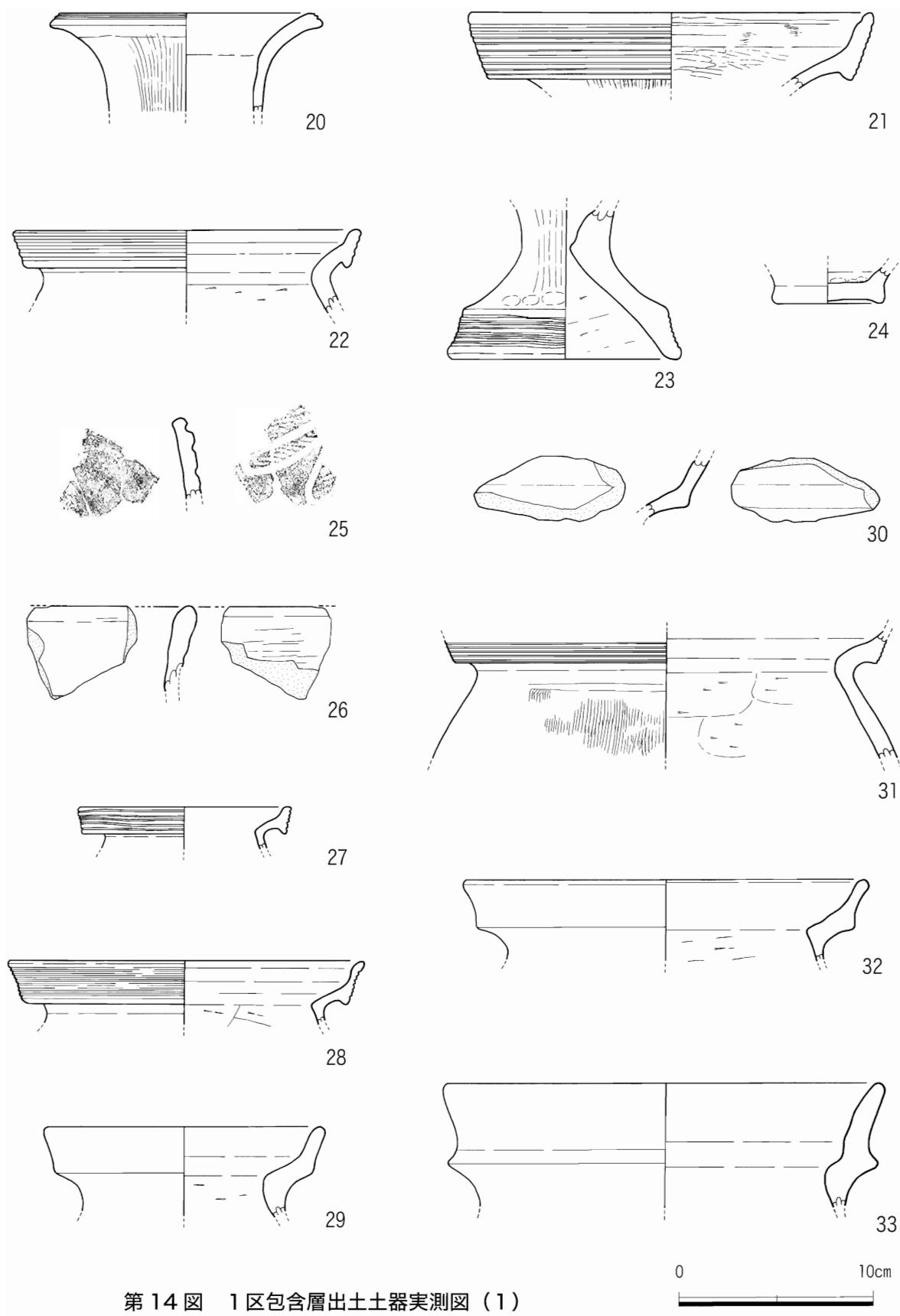
第17図は第7層鈍い黄褐色土（褐色斑文入り）（1区第8層と同一層）の出土遺物、第18図は第3層黒色土（1区第4層と同一層）の出土遺物である。



第12図 SX-01 実測図

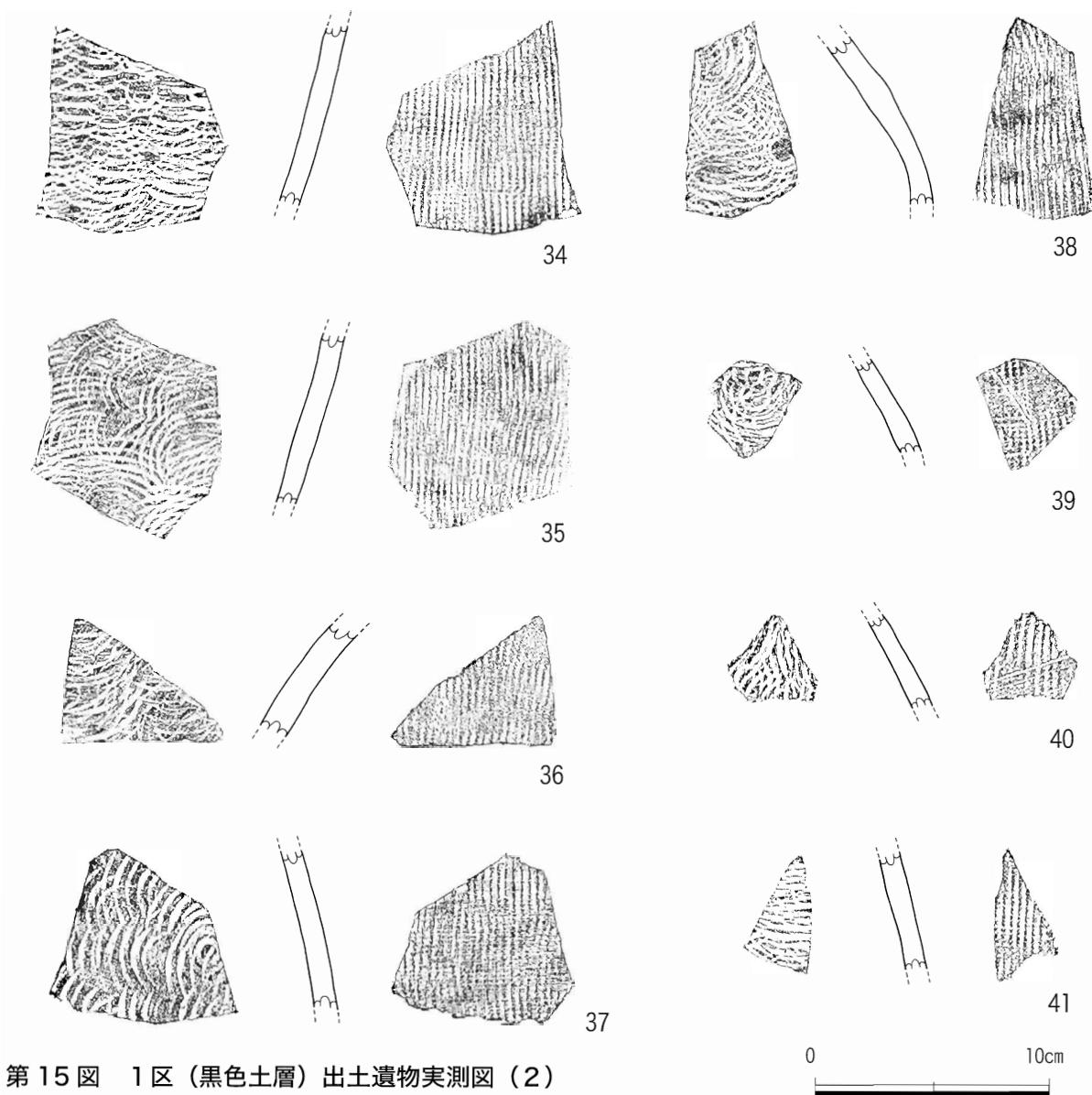


第13図 包含層（1区-8層、2区-7層）遺物出土状況図（土器・土製品）



第14図 1区包含層出土土器実測図(1)

20～24：8層（鈍い黄褐色土）
25～33：4層（黒色土）



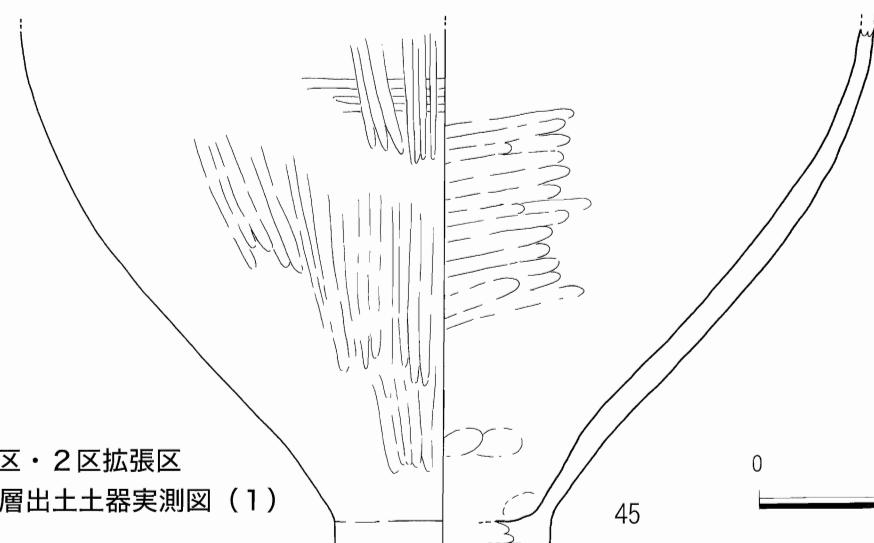
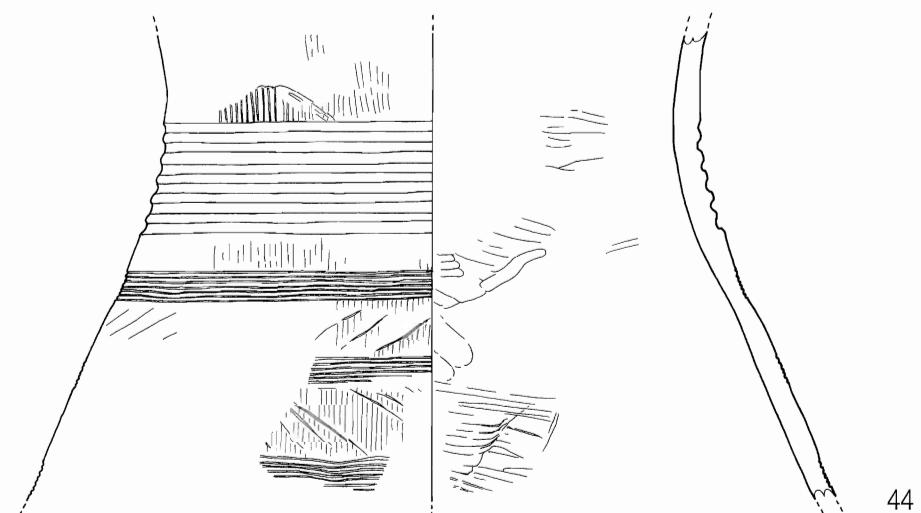
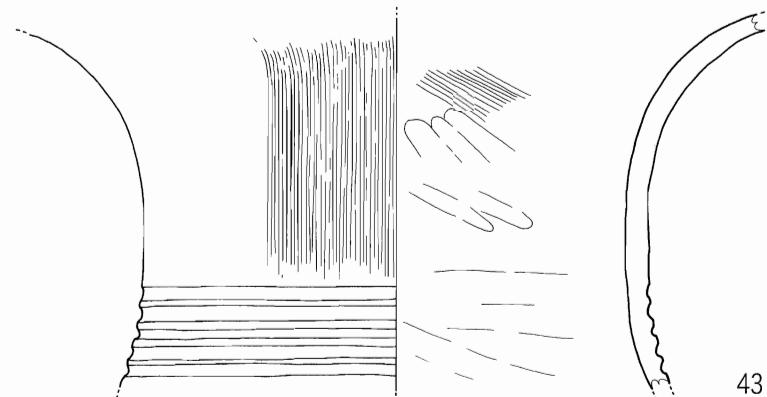
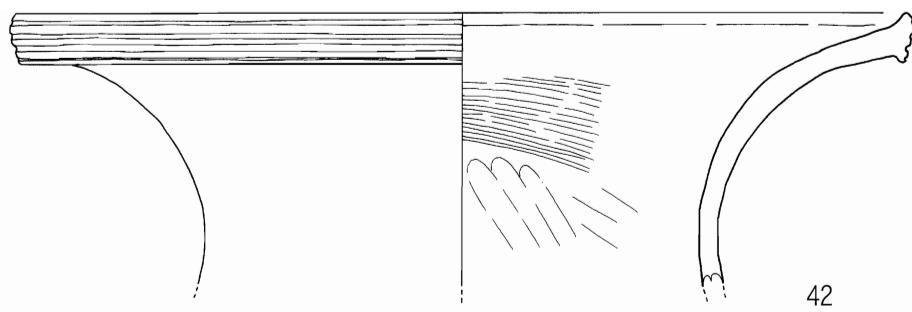
第15図 1区(黒色土層)出土遺物実測図(2)

縄文土器 第17図46は粗製の深鉢、第18図64は口縁外面の端部近くが段をなし、その直下に円孔を持つ破片である。

弥生土器 第16図42～45は同一個体と判断されるもので口縁部と頸部に凹線文、胴部にクシ描平行線文を軸に羽状文を施す広口壺である。IV様式のものと思われる。第17図47も同様のものであろう。同図48～57、第18図65～69は複合口縁の甕である。外面にハケ状工具原体による擬凹線文を施すもの(48、49、66、67)、二枚貝による擬凹線文を施すもの(50～52、54、55)、施文原体の不明なもの(53、56、57)、無文のもの(69)などがある。58～59は鼓形器台で複合部に二枚貝などによる擬凹線文を施し筒部の長いものである。61は複合口縁に擬凹線文を施す高壺、70はつまみ部分の長い蓋で、つまみの上面と下面から円孔を穿つが貫通はしていない。

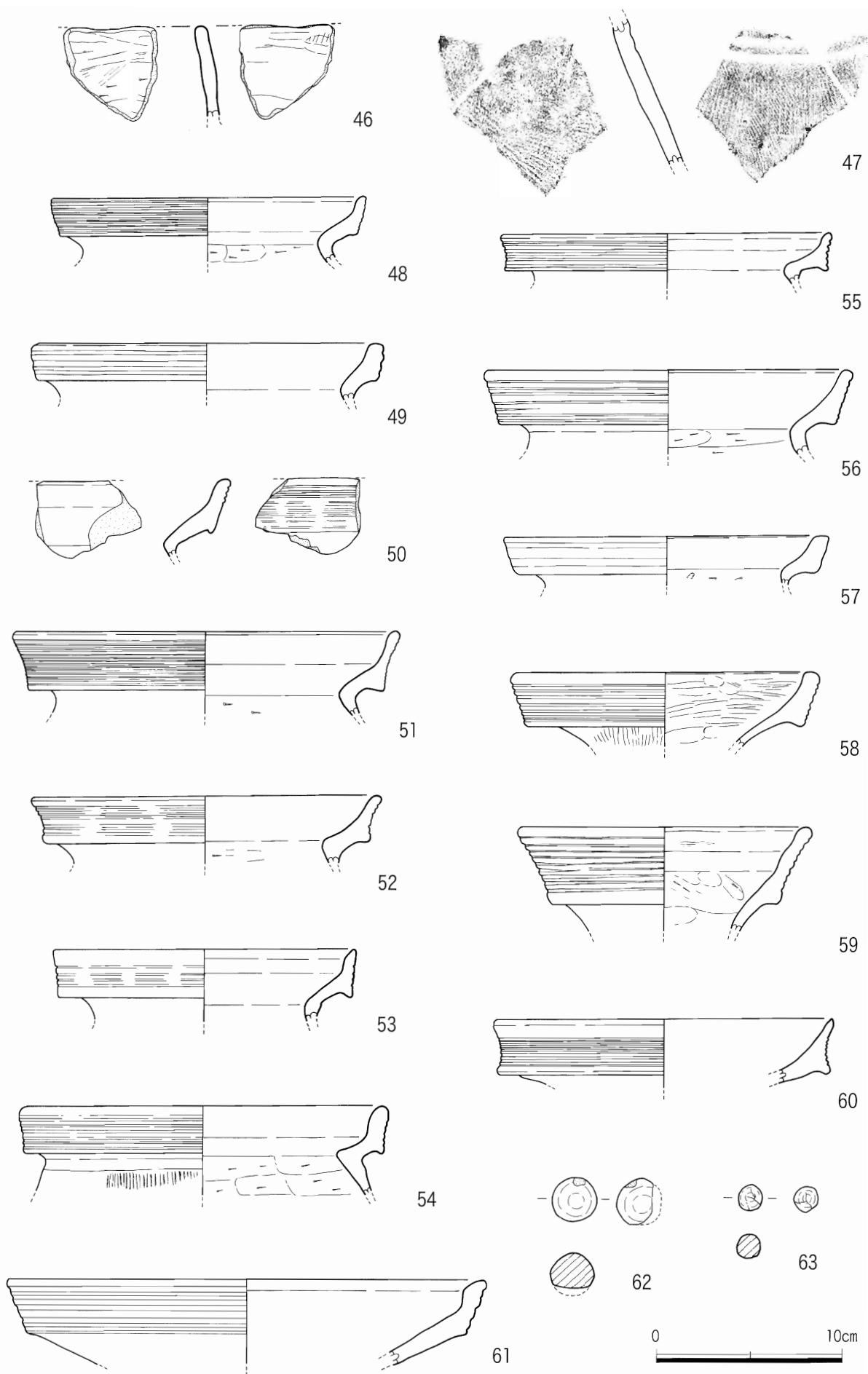
須恵器 71、72は須恵器甕片で外面に平行叩き、内面に同心円当て具痕が見られる。

土玉 62、63は球形の土の玉である。円孔はない。



0 10cm

第16図 2区・2区拡張区
7層出土土器実測図(1)



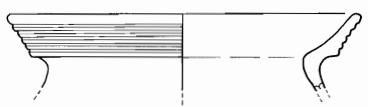
第17図 2区・2区拡張区 7層出土土器実測図（2）



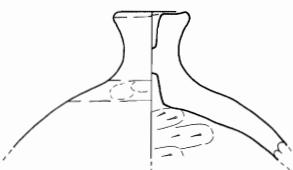
64



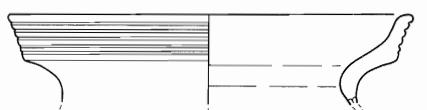
69



65



70



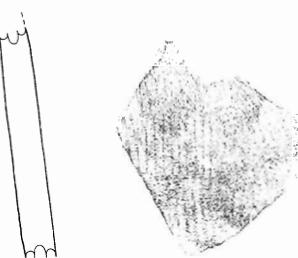
66



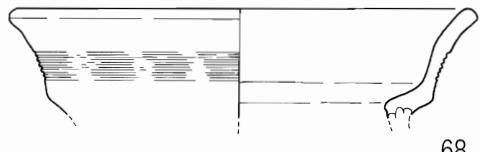
71



67



72



68



0

10cm

第18図 2区・2区拡張区 4層黒色土中出土土器実測図(3)

(2) 石器

1区、2区をまとめて記述する。出土区、層位は遺物観察表に記している。

石鏸 11点あり、すべて凹基式のものである。第21図73～79は黒曜石製である。73は完形品で全長2.7cm、主さ1.08gのもの、74は全長3.0cm、復元すれば主さは2g近くあると推定される大形のもので、2点ともていねいな作りである。75～77は剥離の大きさもまちまちでやや雑な作り方をしている。78、79は石質のせいか風化が進み光沢を失っている。80～83は安山岩製のもので灰色～灰褐色を呈する。82の新しい欠損面は黒色である。

スクレイパー 第22図84は黒曜石製のサイドスクレイパーで全長8.4cm、最大幅2.8cmを測る。縦長剥片を素材とし、その表面側に連続的に押圧剥離を行って刃部を作っている。右側縁下部には原礫面が残る。

楔形石器 85～87は両極剥離痕の見られるもので、楔形石器と考えられる。85は上下に、86は上下左右の四方につぶれが見られる。87は上下につぶれが見られるほか、裏面の右側縁に押圧剥離痕があり刃部を形成しているため、スクレイパーとしても使用されたものであろう。

使用痕のある剥片 88は表面左上側縁に使用した結果できたと思われる刃こぼれのある横長剥片である。表面端部に自然面を残している。

二次加工痕のある剥片 89は裏面の左側縁から右側縁にかけて細かい押圧剥離痕を残すもので、スクレイパーの欠損品かと思われる。表面には自然面を多く残している。写真4も二次加工品である。

石核 90～92、写真1～3は石核である。他に6点を確認している。

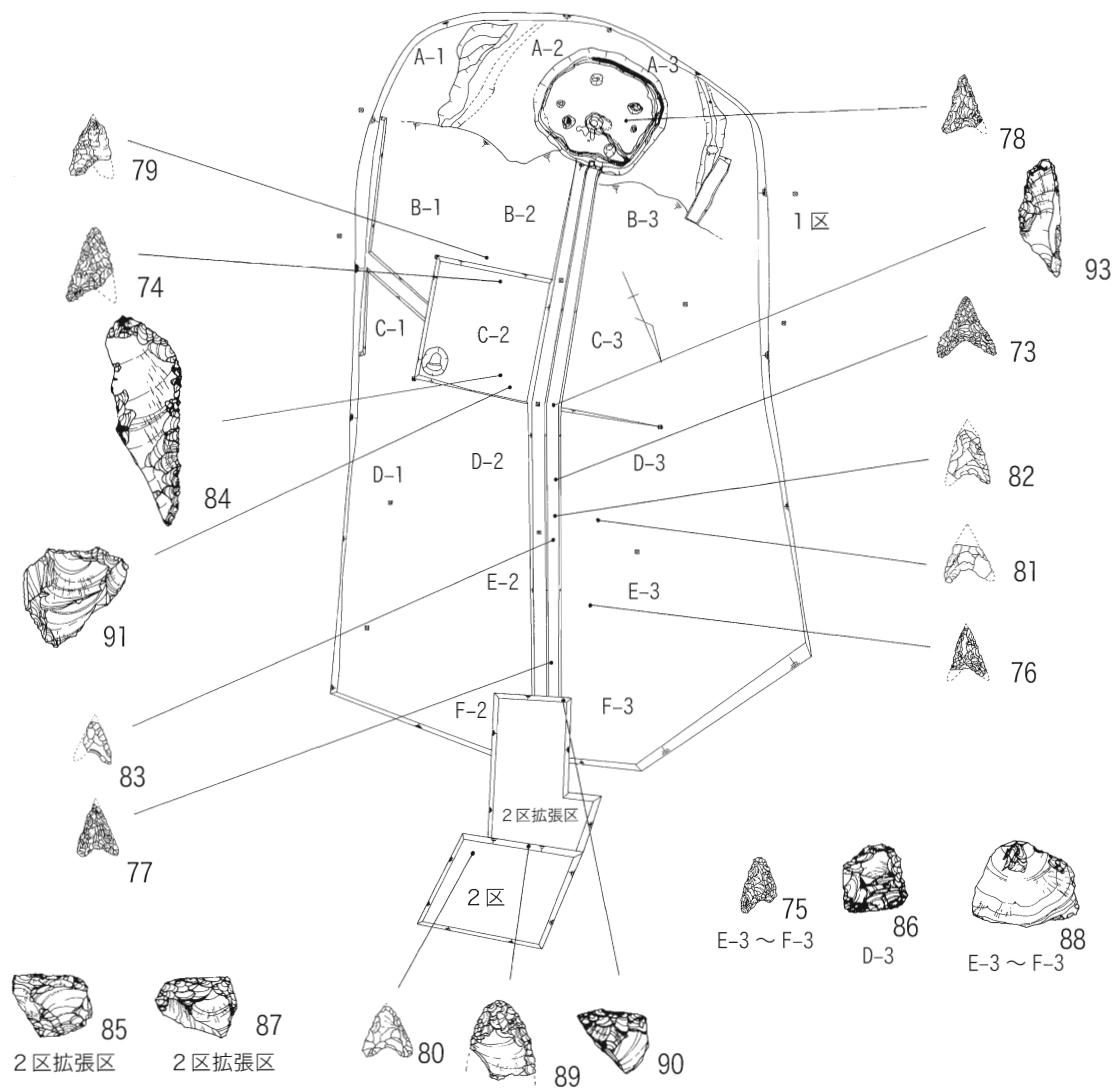
石錐 93は石錐である。先端が磨耗している。

図化し、写真を掲載したもの以外にもスクレイパーの欠損品や二次加工品、使用痕（主に刃こぼれ）のある剥片、石核などを確認しており、詳細は次表の通りである。また安山岩製遺物の総重量は2.66g、黒曜石製遺物と剥片の総重量は577.09gであった。

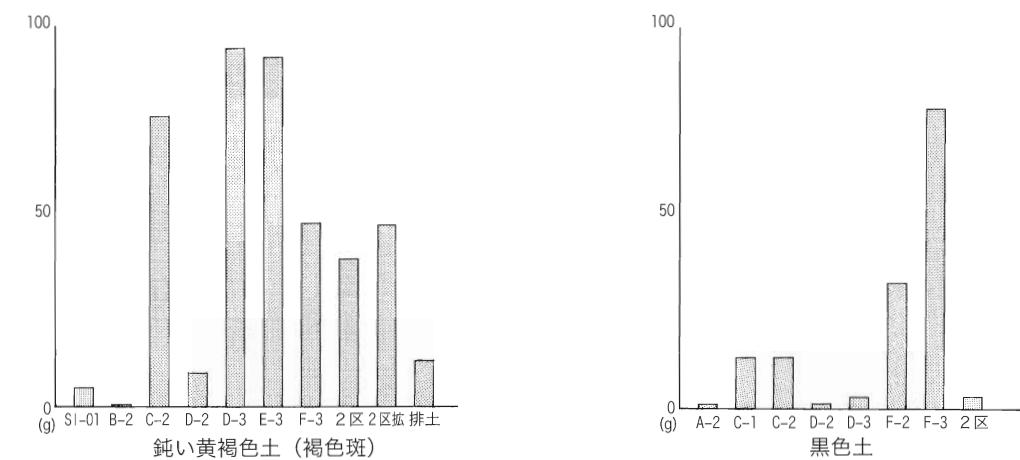
石器出土点数表

※石鏸以外は全て黒曜石

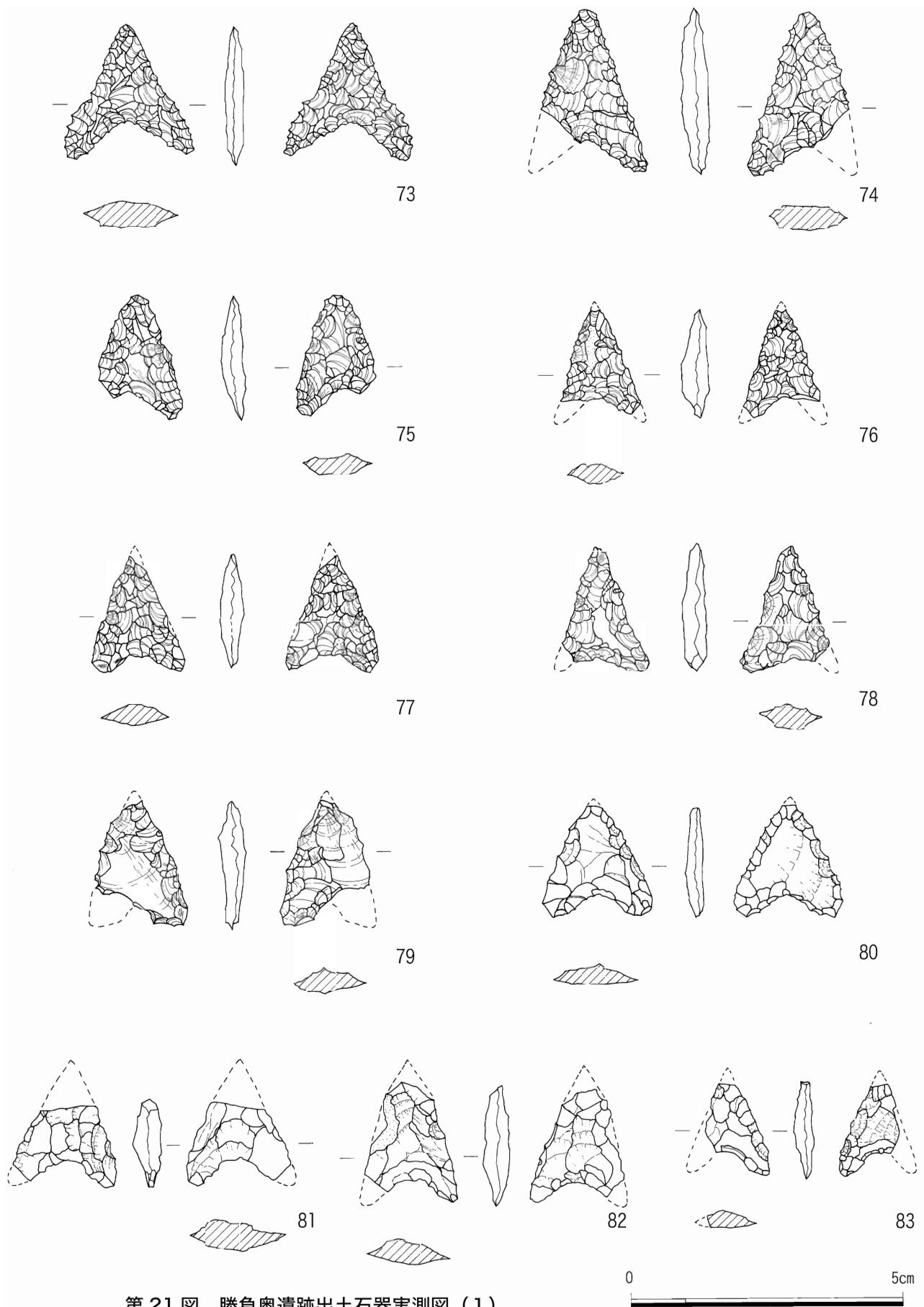
	A区	B区	C区	D区	E区	F区	2区	2拠区	排土	合計
石鏸（黒曜石）	1	1	1	1	3					7
石鏸（安山岩）				1	2		1			4
石鏸未製品					1					1
スクレイパー			2		1		1			4
石錐				1						1
楔形石器				1				2	1	4
石核（破片を含む）			2	2	2	2	2	3		13
使用痕のある剥片	1		2		5	2			1	11
加工痕のある剥片			1	5	3	1				10
その他の剥片	9		31	36	56	25	15	19	7	198
合計	11	1	39	47	73	30	19	24	9	253



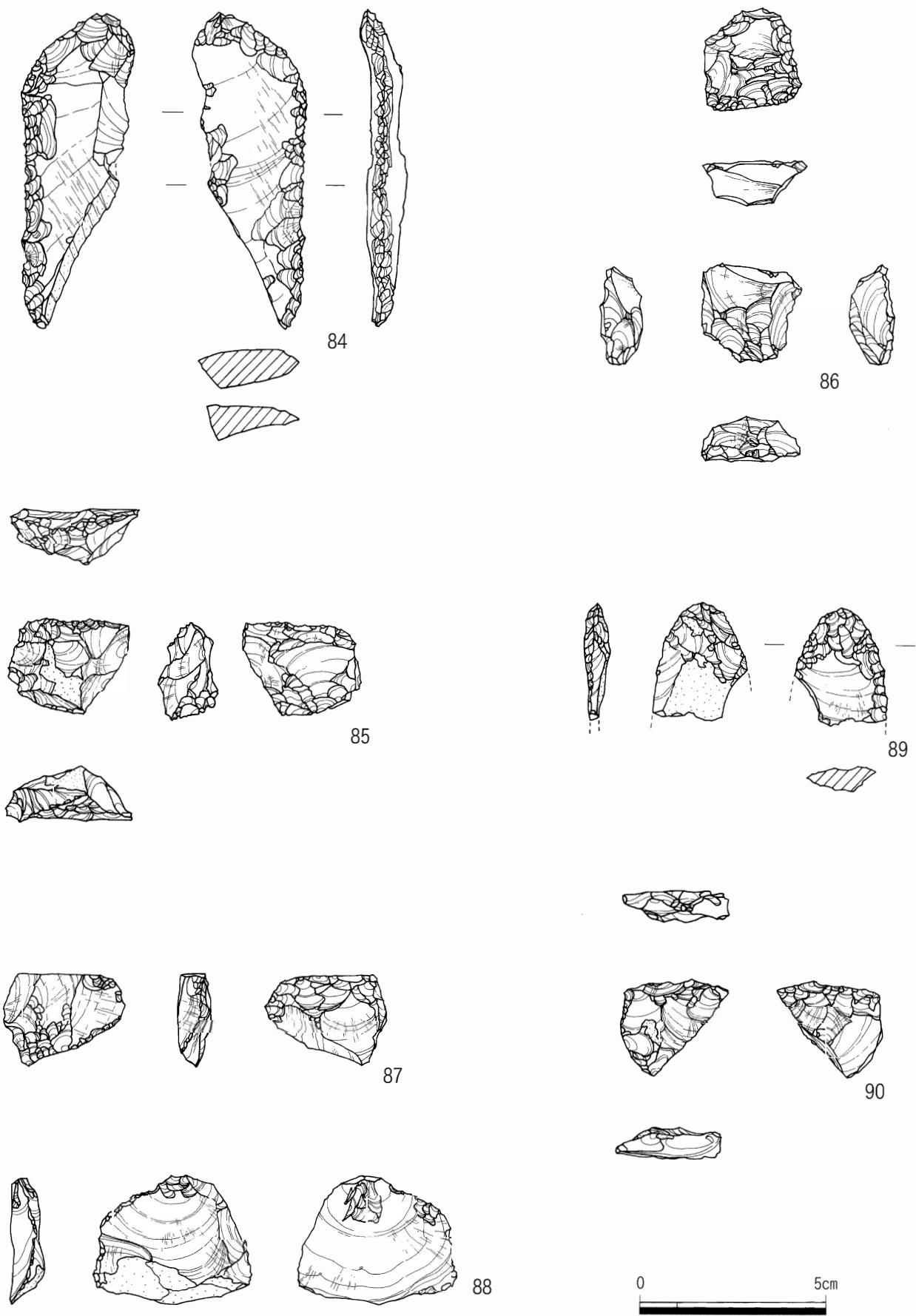
第19図 鈍い黄褐色土層（褐色斑）遺物出土状況図（石器）



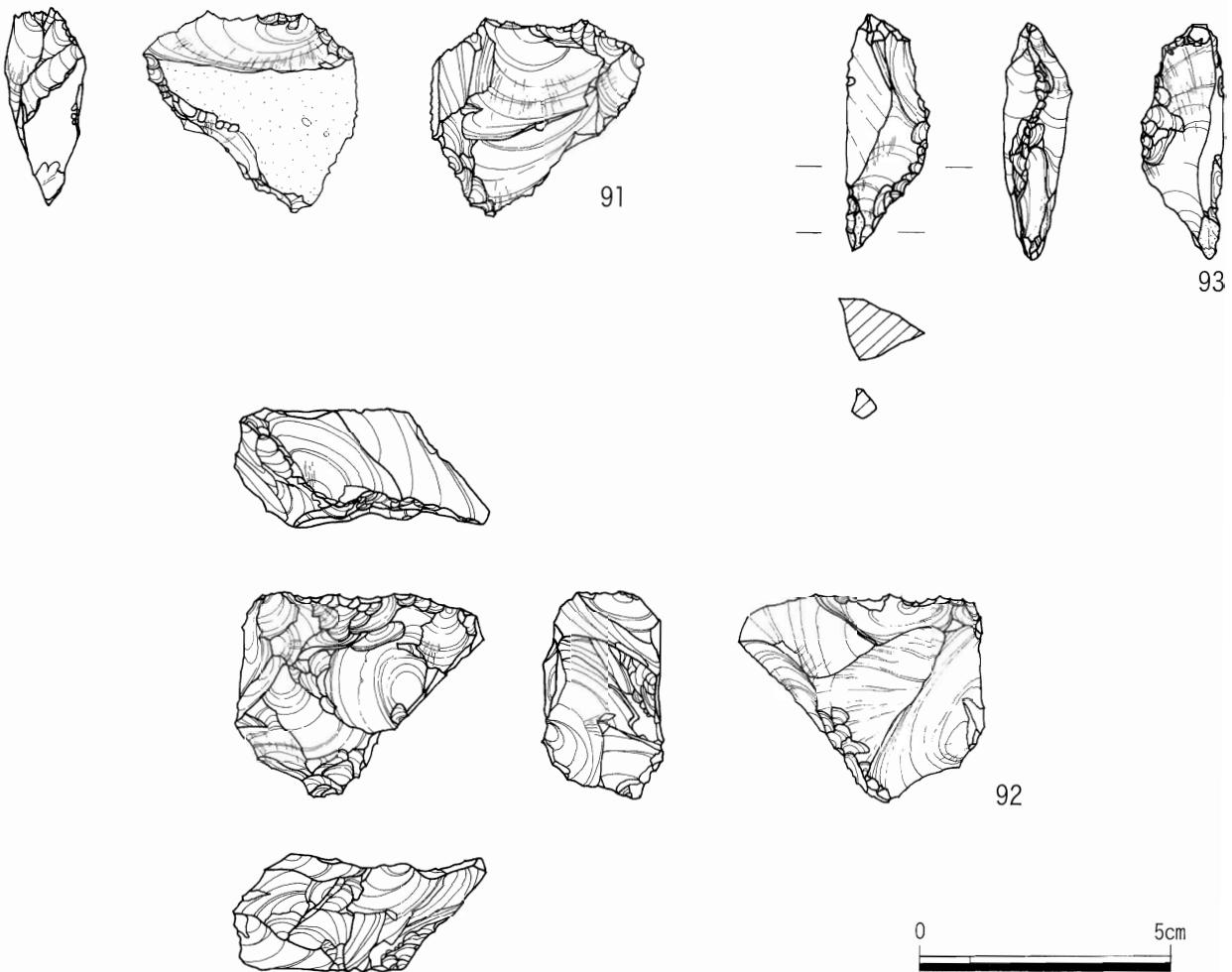
第20図 石器出土重量



第21図 勝負奥遺跡出土石器実測図(1)



第22図 勝負奥遺跡出土石器実測図（2）



第23図 勝負奥遺跡出土石器実測図（3）

IV 結 び

勝負奥遺跡では、弥生時代後期中葉の竪穴住居跡1棟と縄文時代～弥生時代を中心とした遺物包含層を検出した。竪穴住居跡は南北に細長く伸びる低丘陵上から少し下がった所に位置し、残存状況は比較的良好なものであった。覆土中の出土遺物のうち土器類はV-2様式のもの、鉈は川越B₃類（註2）に相当し、後期中葉に出現する可能性があり後期後半に一般的なものようである。

弥生時代後期の集落調査例を松江市橋南部で拾ってみると石台遺跡、向山西遺跡、勝負遺跡、福富I遺跡、廻田遺跡などがある。それぞれの概要を簡単に次表にまとめ若干の考察を試みる。

	石台遺跡	向山西遺跡	勝負遺跡	福富I遺跡5区	廻田遺跡	勝負奥遺跡
立地 ※1	c	a	b	b	a	b
竪穴住居数	1	2	1	5	1	1
平面形	円形	円形	隅丸方形	隅丸方形、多角形 ※2	多角形 ※3	隅丸方形
規模 (m)	径 5.2	径 5.0、6.9	一辺 4.3	一辺又は軸長 4.4～5.5	軸長 7.0	5.0 × 4.4
主柱穴	4本	不明、6本	4本	4本-3棟、5本-2棟	6本	4本
壁体溝	途切れる	全周	一部あり	一部あり	ほぼ全周	全周
中央ピット	○	×、○	○	○	○	○
床面溝	×	×	○(屋外へ)	×	×	○
外周溝	×	×	○	1棟のみ○	×	○
土器様式	V-1	V-1	V-2	V-2	V-2	V-2

※ 1 a ; 丘陵上、b ; 丘陵頂部からやや下がった所、c ; 丘陵縁辺部

2・3 報告書で円形と報告されているものについて、図面観察により多角形とした。

後期集落の立地については安来の調査と同様に丘陵縁辺部から丘陵上へという図式が成り立つようであり、集落の戸数は少なく、平面形は円形から隅丸方形・多角形へ変わっていくことがわかる。主柱穴の本数は径や軸長が7m前後のものは6本、5m前後のものは4～5本で上屋を保持できるものと見られる。軸長5m前後の場合隅丸方形は4本、多角形は4本でも5本でもよい。外周溝については丘陵上では必要なくとも斜面にかかる場所では垂木を架けおろす周堤を雨水から守り住居への水の浸入を防ぐために必要な施設と考えられるが検出例は多くない。勝負遺跡、福富I遺跡の2例とも山側に途切れる部分があるが、ここを竪穴入口に至る陸橋と考えてはどうであろうか。山側でない場所に入口を作る場合は橋をかけるか外周溝を暗渠にするしかあるまい。他に中央ピットの性格、出土遺物の詳細な検討、丘陵部立地の背景など問題は山積であるが力量不足により今後の課題とする。

谷部の遺物包含層からは弥生後期の甕・器台・高坏などを中心とした縄文土器小片、弥生中期広口壺、須恵器甕片などの土器類の他、石鏃・スクレイパー・石錐などの製品に加えて石核・剥片など黒曜石製の遺物が多く出土し、近辺で黒曜石を使用した石器製作が行われたことが明らかになった。

これまで、乃白町の丘陵部においては、勝負廻古墳群や横穴墓群、乃白権現遺跡、松本修法壇跡など古墳時代以降の遺跡は知られていたが、今回の調査によりさらに古い時代の様相をうかがうことができ、地域研究の貴重な資料になったものと思われる。

遺物観察表(1)

挿図番号	種別 器種	出土位置	寸法(cm) 口径 器高	形態・文様の特徴	調整	色調	備考
10-1	弥生土器 底部	SI-01 床面	底径 4.4	小さめの平底から丸みをもつて 胴部へ立ち上がる。	外面ハケメ 内面ヘラケズリ	淡褐色～橙褐色 付着	外面に炭化物付着
10-2	弥生土器 甕	SI-01 3層	17.4	複合口縁。わずかに外傾する口縁 部に4条の凹線文。複合部は下垂。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	橙色	外面に炭化物付着
10-3	弥生土器 甕	SI-01 2層	12.2	複合口縁。口縁部は小さく外反、 複合部は稜をなす。	風化	橙色	
10-4	弥生土器 甕	SI-01 2～3層	17.0	複合口縁。やや外傾する口縁部 に4条の凹線文。複合部は下垂。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	外面褐色 内面鈍い褐色	
10-5	弥生土器 甕	SI-01 2層	17.4	複合口縁。 口縁部は直立し端部は丸い。	風化	鈍い黄橙色	
10-6	弥生土器 甕	SI-01 2～3層	16.2	複合口縁。外傾する口縁外面に 4条の擬凹線文。複合部は下垂。	ヨコナデ	外面橙色 内面鈍い黄橙色	
10-7	弥生土器 甕	SI-01 2～3層	15.5	複合口縁。外傾する口縁外面に 8条の擬凹線文。複合部は斜め下方に突出。	ヨコナデ、ヘラケズリ	褐色～淡灰褐色	
10-8	弥生土器 高坏	SI-01 2層		複合口縁。口縁外面に4～5条 単位の平行沈線文2段	ナデ	浅黄橙色	
10-9	弥生土器 甕	SI-01 2～3層	21.4	複合口縁。外傾する口縁部に8条 の擬凹線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	浅黄橙色	
10-10	弥生土器 甕	SI-01 C-C'周溝内下層		複合口縁。外反気味の口縁外面 に僅かに擬凹線文が残る。	ヨコナデ	黄褐色～淡灰色	
10-11	石器 石斧	SI-01 2～3層	残存長 9.8	残存幅 5.2	厚さ3.3cm、重量180g	全面に擦痕あり	石材
10-12	鉄器 ヤリガンナ	SI-01 2層	全長 12.9	刃部は断面V字形で鍔状に広がる。柄部の木質はほぼ完存。			
11-13	弥生土器 甕	SI-01周辺 鈍い黄褐色土	24.0	複合口縁。外傾する口縁外面に 7条の擬凹線文。複合部突出せず。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	鈍い黄橙色	
11-14	弥生土器 甕	SI-01周辺 鈍い黄褐色土	14.8	複合口縁。複合部突出せず。	風化	外面明黄褐色 内面鈍い黄橙色	
11-15	弥生土器 甕	SI-01上層 黒色土	23.6	複合口縁。やや外傾する口縁外面 に多条の浅い擬凹線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	明黄褐色	外面に炭化物付着
11-16	弥生土器 甕	SI-01上層、周辺 暗褐色土	15.0	複合口縁。やや外反する口縁外面 に7条の擬凹線文。	ヨコナデ		
11-17	弥生土器 甕	SI-01上層 黒色土	24.4	複合口縁。口縁部は斜め上方に 立ちあがる。複合部は突出せず丸い。	ヨコナデ、風化	黄褐色	
11-18	不明土器	SI-01周辺 鈍い黄褐色土	底径 19.0	脚部または台部。	外面ナデ 内面ヘラケズリ	黄褐色	
11-19	弥生土器 甕	SI-01周辺 暗茶褐色土		肩部に斜行刺突文。	外面ハケメ 内面ヘラケズリ	明褐色	
14-20	弥生土器 壺	谷部1区(D-2) 8層	14.0	外反して開口頸部。端部に浅い 2条の凹線文。	外面ハケメ 内面風化、ナデか	鈍い黄橙色	
14-21	弥生土器 高坏	谷部1区(C-2) 8層	21.0	複合口縁。口縁部外傾。外面に 9条の擬凹線文。	外面ハケメ 内面ヘラミガキ	鈍い黄橙色	
14-22	弥生土器 甕	谷部1区(D-2) 8層	18.0	複合口縁。口縁短く外傾。外面に 4条の擬凹線文。複合部は下垂。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	外面灰黄褐色 内面鈍い黄橙色	
14-23	弥生土器 鼓形器台	谷部1区(C-2) 8層	12.0	脚筒部～脚台部。裾部は逆複合 口縁状で外面に7条の擬凹線文。	外面ナデ 内面ヘラケズリ、ナデ	外面橙色 内面鈍い橙色	
14-24	縄文土器 底部	谷部1区(D-2) 8層	5.8	わずかに上げ底気味	ナデ、指頭圧痕	鈍い黄橙色	
14-25	縄文土器 深鉢	谷部1区(C-2) 4層		磨消繩文。		褐色	
14-26	縄文土器? 深鉢?	谷部1区(B-2) 4層		口縁端部はやや膨らみ丸みを 帯びる。	ナデ	外面黒～黄灰色 内面鈍い黄橙色	
14-27	弥生土器 甕	谷部1区(C-2) 4層	11.0	複合口縁。やや外傾する口縁外面 に5条のヘラ描き平行線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	鈍い橙～褐色	
14-28	弥生土器 甕	谷部1区(B-1) 4層	18.4	複合口縁。やや外傾する口縁外面 に多条の浅い平行線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズリ	鈍い黄橙色	
14-29	弥生土器 甕	谷部1区(D-1) 4層	14.6	複合口縁。やや外傾する口縁部。 多条の平行線?(風化)	ヨコナデか 頸部内面以下ヘラケズリ	鈍い黄橙色	
14-30	弥生土器 甕	谷部1区(C-2) 4層		複合口縁。外傾する口縁部片。 複合部は角張る。	風化	燈～灰黄褐色	
14-31	弥生土器 甕	谷部1区(D-1) 4層		複合口縁。(上部欠損) 口縁部5条以上の擬凹線文。	ヨコナデ ハケメ、ヘラケズリ	外面鈍い橙色 内面鈍い黄橙色	頸部以下内外 面炭化物付着
14-32	弥生土器 甕	谷部2区 4層	21.0	複合口縁。口縁部は外傾。	全体に摩滅	橙色	
14-33	弥生土器 甕	谷部1区(F-4) 4層	22.8	複合口縁。口縁部は外傾。複合部 は水平に突出。器壁は厚い。	全体に摩滅	鈍い褐色	
15-34	須恵器 甕	谷部1区(C-4) 4層		胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	暗灰色	
15-35	須恵器 甕	谷部1区(A-2) 搅乱土		胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面暗灰色 内面灰色	
15-36	須恵器 甕	谷部1区(B-1) 4層		胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面暗灰色 内面灰色	

挿図番号	器種	出土位置	寸法(cm)		形態・文様の特徴	調整	色調	備考
			口径	器高				
15-37	須恵器 甕	谷部1区(A-2) 搅乱土			胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面暗灰色 内面灰色	
15-38	須恵器 甕	谷部1区 試掘時出土			胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面暗灰色 内面灰色	
15-39	須恵器 甕	谷部1区 4層 黒褐色土			胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面淡黄褐色 内面暗黄褐色	
15-40	須恵器 甕	谷部1区 廃土			胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	淡灰色	
15-41	須恵器 甕	谷部1区 試掘時出土			胴部片。	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	灰色	
16-42	弥生土器 壺	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	25.6		朝顔状に大きく開く口縁部。端部は上下に拡張し外面に4条の凹線文。	外面風化 内面ハケメ、ナデ	鈍い黄橙色	
16-43	弥生土器 壺	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土			口縁部下～頸部片。頸部に5条以上の凹線文。5-1と同一個体か。	外面ハケメ 内面ハケメ、ナデ	外面鈍い黄橙色 内面橙色	
16-44	弥生土器 壺	谷部2区 7層 鈍い黄褐色土			頸部に凹線文6条。肩部に平行線文とそれを軸にした羽状文(へラ)。	外面ハケメ 内面ハケメ、ヘラミガキ	鈍い橙色	
16-45	弥生土器 壺	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	底径 8.6		胴～底部片。5-1～3と同一個体か。	外面ヘラミガキ 内面ヘラミガキ、ナデ	鈍い黄橙色	
17-46	縄文土器 深鉢	谷部2区 7層 鈍い黄褐色土			外傾して伸びる口縁部片。端部は丸い。	外面ナデ 内面ケズリ後ナデか		
17-47	弥生土器 壺	谷部2区 7層 鈍い黄褐色土			頸部に3条以上の凹線文。	外面ハケメ 内面ハケメ	鈍い黄橙色	
17-48	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	17.0		複合口縁。外傾する口縁外面に8条の擬凹線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズ	外面灰黄褐色 内面鈍い黄橙色	外面に炭化物付着
17-49	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	19.0		複合口縁。わずかに外傾する口縁外面に3条の平行線文。器壁厚い。	ヨコナデ	鈍い黄橙色	外面に炭化物付着
17-50	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土			複合口縁。外傾する口縁外面に多条の擬凹線文。	ヨコナデ	鈍い黄橙色	
17-51	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	21.0		複合口縁。外反する口縁外面に多条の擬凹線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズ	鈍い橙色	外面に炭化物付着
17-52	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	19.0		複合口縁。外反する口縁外面に5条の擬凹線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズ	外面橙色 内面鈍い黄橙色	
17-53	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	16.4		複合口縁。直立する口縁外面に多条の平行線文。複合部下垂。	風化、ヨコナデ	外面浅黄橙色 内面橙～鈍い黄橙色	
17-54	弥生土器 甕	谷部2区 7層 鈍い黄褐色土	20.0		複合口縁。直立気味の口縁外面に6～7条の擬凹線文。	外面ヨコナデ、ハケメ 内面ヨコナデ、ヘラケズ	橙色	
17-55	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	18.0		複合口縁。わずかに外反する口縁外面に5条の擬凹線文。	ヨコナデ	外面灰黄褐色 内面鈍い黄橙色	
17-56	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	20.0		複合口縁。外傾する口縁外面に7～8条からなる擬凹線文。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズ	鈍い黄橙色	
17-57	弥生土器 甕	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	17.6		複合口縁。口縁部は短く器壁厚い。外面に2条の凹線状の浅い溝み。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズ	鈍い黄橙色	
17-58	弥生土器 鼓形器台	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	16.8		器受け部。複合口縁。外傾する口縁外面に7条の擬凹線文。	内面ヘラミガキ	鈍い黄橙色	
17-59	弥生土器 鼓形器台	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	16.0		器受け部。複合口縁。外傾する口縁外面に9条の擬凹線文。	ヨコナデ、ナデ	鈍い黄橙色	
17-60	弥生土器 鼓形器台	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	18.4		器受け部。複合口縁。外反する口縁外面に多条の擬凹線文。	ヨコナデ	鈍い黄橙色	
17-61	弥生土器 高坏	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	26.0		複合口縁。外傾する口縁外面に5条の平行線文。口縁内面肥厚。	内面は放射状にナデ	鈍い黄橙色	
17-62	土製品 土玉	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	直径 2.4		球形。円孔なし。3分の1を欠く。	後内外面共ヨコナデ	黒褐～鈍い褐色	
17-63	土製品 土玉	谷部2区拡張区 7層 鈍い黄褐色土	1.3～1.4		ほぼ球形。円孔なし。表面に亀裂。		浅黄橙色	
18-64	縄文土器	谷部2区 3層 黒色土			口縁端部下の外面に低い段を持ちその下側に円孔を穿つ。	風化	外面黄灰色 内面灰色	
18-65	弥生土器 甕	谷部2区 3層 黒色土	14.0		複合口縁。大きく開く口縁外面に多条の擬凹線文。	風化		
18-66	弥生土器 甕	谷部2区 3層 黒色土	16.0		複合口縁。外傾する口縁外面に5条の擬凹線文。複合部突出せず。	口縁部ヨコナデ 頸部内面以下ヘラケズ	明黄褐色	
18-67	弥生土器 甕	谷部2区 3層 黒色土	17.0		複合口縁。外傾する口縁外面に8条の擬凹線文。複合部突出せず。	ヨコナデ	外面褐灰色 内面鈍い黄橙色	外面に炭化物付着
18-68	弥生土器 甕	谷部2区 3層 黒色土	18.6		複合口縁。外反する口縁外面に多条の擬凹線文。端部は肥厚。	ヨコナデ(風化気味)	鈍い黄橙色	
18-69	弥生土器 甕	谷部2区 3層 黒色土			複合口縁。口縁部は外傾。複合部は斜め下方に少し出る。	風化	浅黄橙色	
18-70	弥生土器 蓋	谷部2区 試掘時出土	つまみ径 3.0		つまみ部分に上下から円孔を穿つが未貫通。	外面ナデ 内面ヘラケズ	鈍い黄橙色	
18-71	須恵器 甕	谷部2区 3層 黒色土			胴部片	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面灰褐色 内面暗褐色	
18-72	須恵器 甕	谷部2区拡張区 3層 黒色土			胴部片	外面平行タタキ痕 内面同心円押当具痕	外面灰色 内面淡灰色	

遺物観察表(2)

※()は残存値

挿図番号	種類	出土地点・層位	法量(cm)				材質	備考
			全長	最大幅	最大厚	重量		
73	石鏸	1区 D-3 8層	2.7	2.3	0.4	1.08	黒曜石	凹基無茎鏸
74	石鏸	1区 C-2 8層	3.0	(2.0)	0.5	1.64	黒曜石	凹基無茎鏸
75	石鏸	1区 E-3～F-3 8層	2.3	(1.4)	0.4	0.81	黒曜石	凹基無茎鏸
76	石鏸	1区 E-3 8層	(1.9)	(1.5)	0.5	0.71	黒曜石	凹基無茎鏸
77	石鏸	1区 E-3 8層	(2.2)	1.7	0.5	0.89	黒曜石	凹基無茎鏸
78	石鏸	1区 A-3 8層	2.3	(1.5)	0.4	0.91	黒曜石	凹基無茎鏸 風化
79	石鏸	1区 B-2 8層	(2.4)	(1.6)	0.5	0.99	黒曜石	凹基無茎鏸 風化
80	石鏸	2区 7層	(2.1)	2.0	0.3	0.80	安山岩	凹基無茎鏸
81	石鏸	1区 E-3 8層	(1.5)	(1.9)	0.4	0.87	安山岩	凹基無茎鏸
82	石鏸	1区 D-3 8層	(1.8)	(1.7)	0.4	0.99	安山岩	凹基無茎鏸
83	石鏸	1区 E-3 8層	(1.7)	(1.0)	0.3	0.41	安山岩	凹基無茎鏸
84	スクレイパー	1区 C-2 8層	8.4	2.8	1.1	19.30	黒曜石	
85	楔形石器	2区 西拡張区 7層	2.5	3.2	1.2	8.78	黒曜石	
86	楔形石器	1区 D-3 8層	2.6	2.6	1.1	7.44	黒曜石	
87	楔形石器	2区 西拡張区 7層	2.4	3.2	0.7	5.28	黒曜石	
88	剥片	1区 E-3～F-3 8層	3.4	4.3	0.7	8.49	黒曜石	使用痕有り
89	スクレイパー	2区 7層	3.0	2.4	0.7	4.13	黒曜石	
90	石核	2区 西拡張区 7層	2.5	2.7	0.7	4.42	黒曜石	
91	石核	1区 C-2 8層	3.9	4.1	1.4	19.27	黒曜石	
92	石核	1区 F-3 4層	4.0	4.8	2.2	37.82	黒曜石	
93	石錐	1区 D-3 8層	4.7	1.6	1.2	7.05	黒曜石	スクレイパーを兼ねる
写図1	石核	1区 C-1 4層	3.7	2.6	1.6	13.63	黒曜石	
写図2	石核	1区 F-3 4層	6.0	3.5	2.0	41.38	黒曜石	
写図3	石核	1区 E-3～F-3 8層	3.0	2.0	1.8	9.90	黒曜石	
写図4	剥片	1区 E-3～F-3 8層	3.7	2.7	0.4	7.70	黒曜石	加工痕有り

註1 弥生土器の年代観については、松本岩雄・正岡睦夫編『弥生土器の様式と編年』(1992年木耳社発行)による。

註2 川越哲志『弥生時代の鉄器文化』(1993年雄山閣発行)によれば、鉈のB₃類は「刃部が鎌状で身部幅より大きく、刃部に鎬があり、刃部断面がV字形を呈するa類と、鎬がなく、刃部断面が三日月形をするb類の2タイプ」があり、本遺跡例はa類に相当するものと思われる。

参考文献

島根県教育委員会『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書VII(石台遺跡)』平成元年
 島根県教育委員会『一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IX(勝負遺跡)』1992年
 島根県教育委員会『福富I遺跡・屋形I号墳』一般国道9号(松江道路西地区)建設予定地内埋蔵文化財
 発掘調査報告書2 1997年

島根県教育委員会『門生黒谷I遺跡・門生黒谷II遺跡・門生黒谷III遺跡』—一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書14—1998年

図 版

図版 1



調査前遠景（東より）



1区調査前（東より）

図版2



1区調査後（南西より）



1区調査後（北より）

図版3



SI-01 (南東より)



SI-01 (北西より)

図版4



S I - 01 (南西より)



S I - 01 内
東西堆積土層断面



S I - 01 内
南北 (南半) 堆積土層断面

図版5



S I - 01 中央ピットと溝



S I - 01 北壁際遺物出土状況

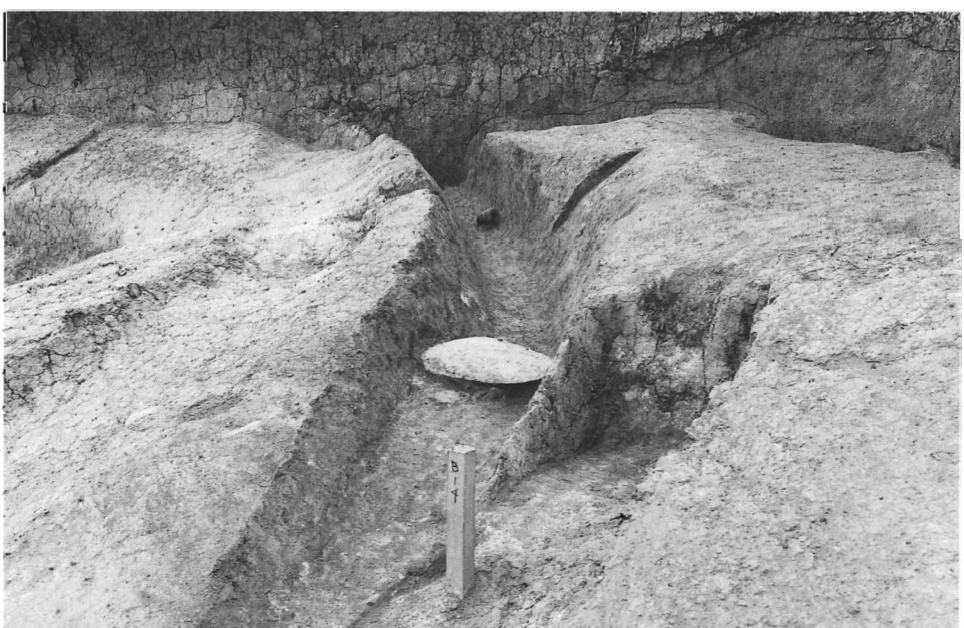


S I - 01
外周溝（北西側）検出状況

図版6



S1-O1 外周溝（北西側）
完掘後（南より）



S1-O1 外周溝（北西側）
完掘後（北より）



S1-O1 外周溝（南東側）
堆積土層断面

図版 7



S I - 01 埋土中遺物出土状況



S I - 01 断ち割り後



同上 土層断面

図版8



1区 南北土層断面



1区 南北畦中央付近土層断面



1区 東西畦西半土層断面

図版9



1区 東西（東半）土層断面



1区 南壁（東半）土層断面



1区 南壁（西半）土層断面

図版 10



1区 黒色土除去後 全景



1区 SX-01



1区 遺跡出土状況（器台）

図版 11



2区 調査前近景（北より）

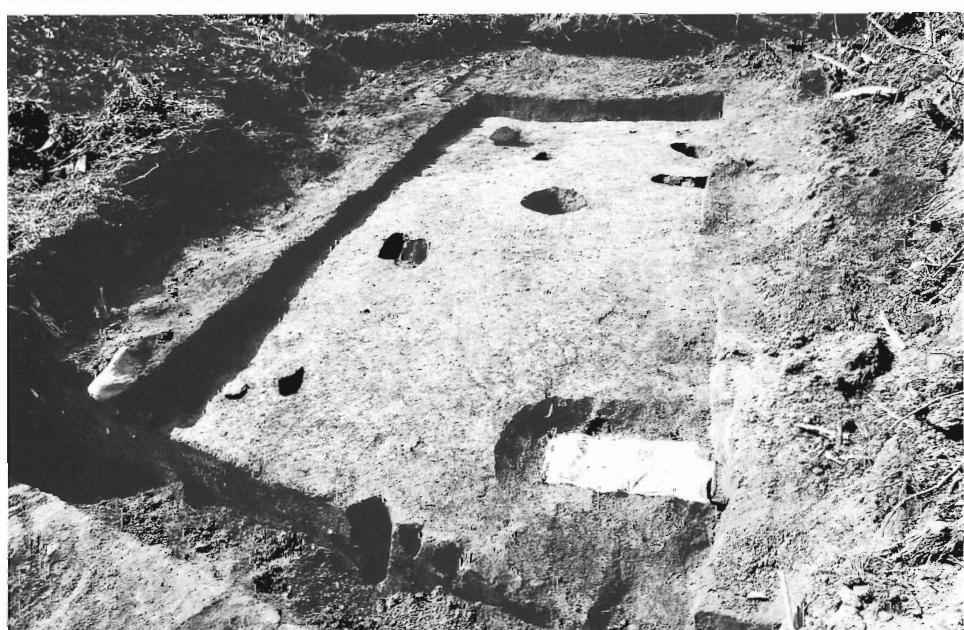


2区 調査後近景（北東より）

図版 12



2区 北西壁土層断面



2区拡張区 黒色土除去後



2区拡張区 土器溜

図版 13

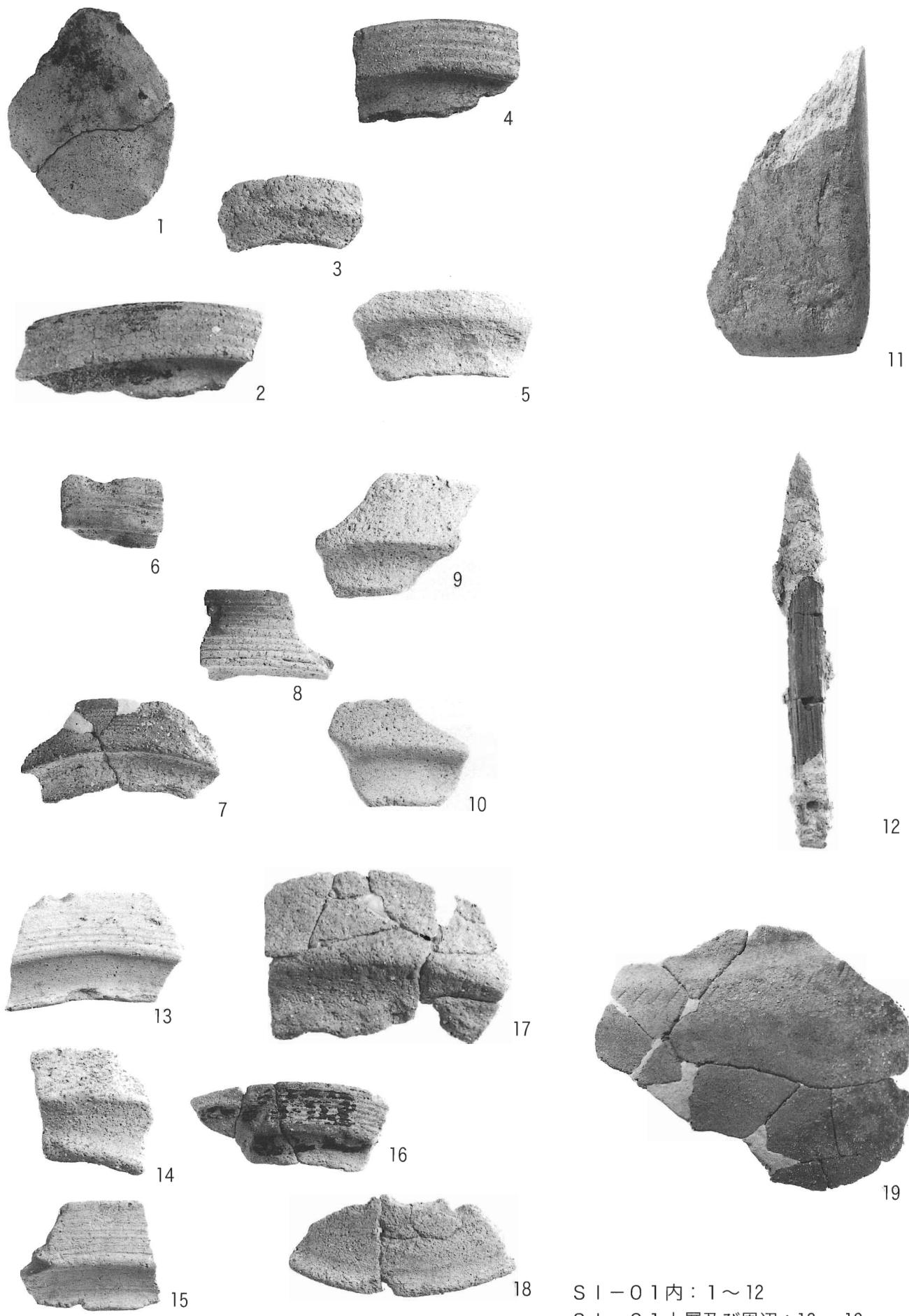


2区拡張区 調査後（北東より）

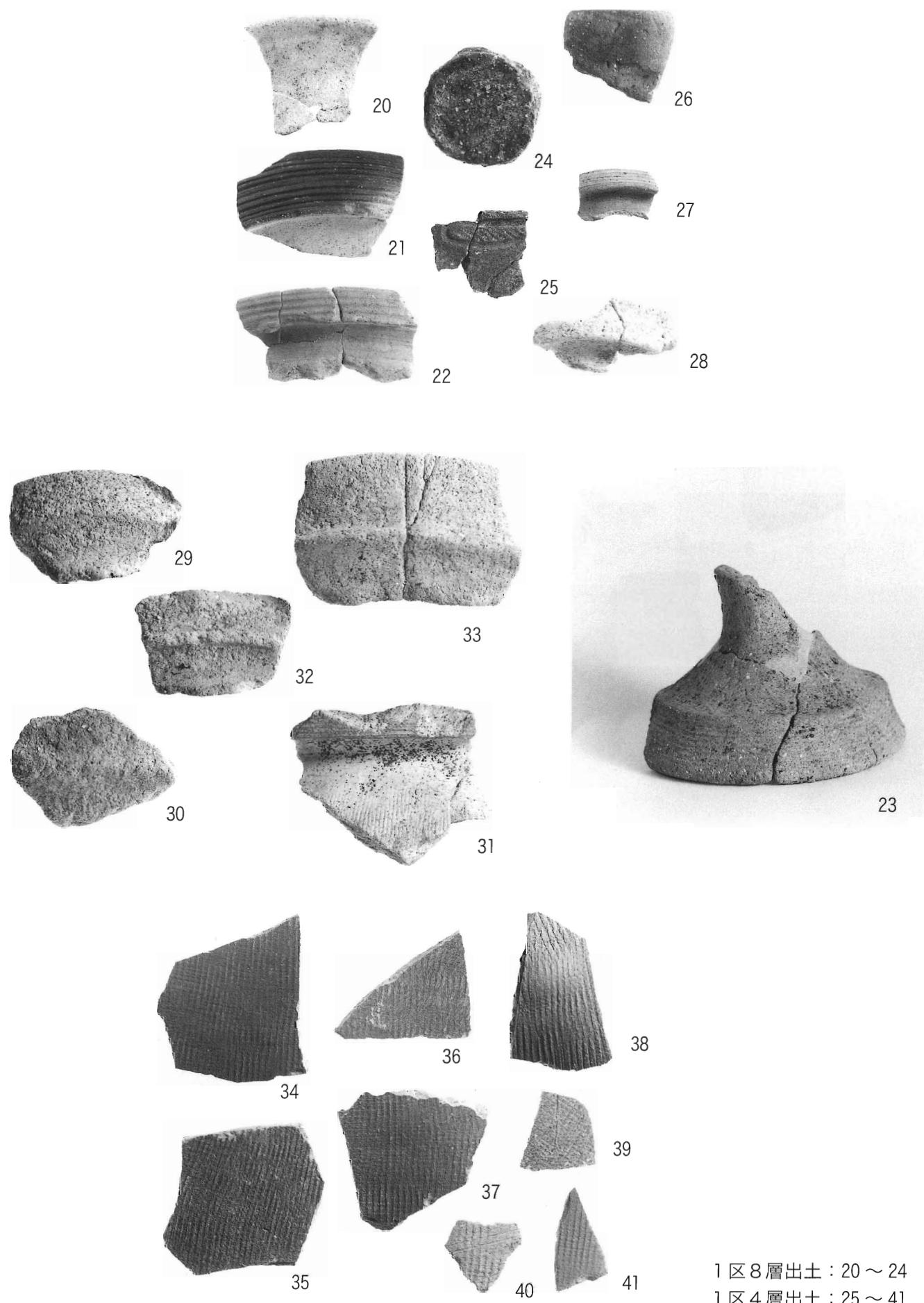


2区拡張区 北西壁土層断面

図版 14

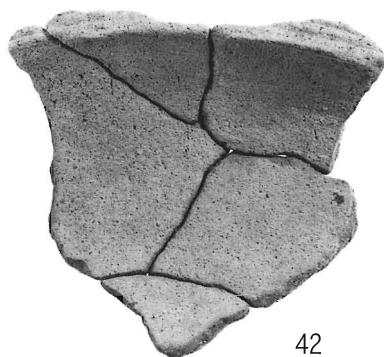


図版 15



1区8層出土：20～24
1区4層出土：25～41

図版 16



42



43



44



45



46



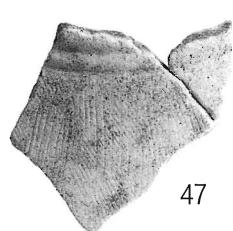
49



51



54



47



50



52



55



53



56

2区・2区拡張区7層出土：42～56

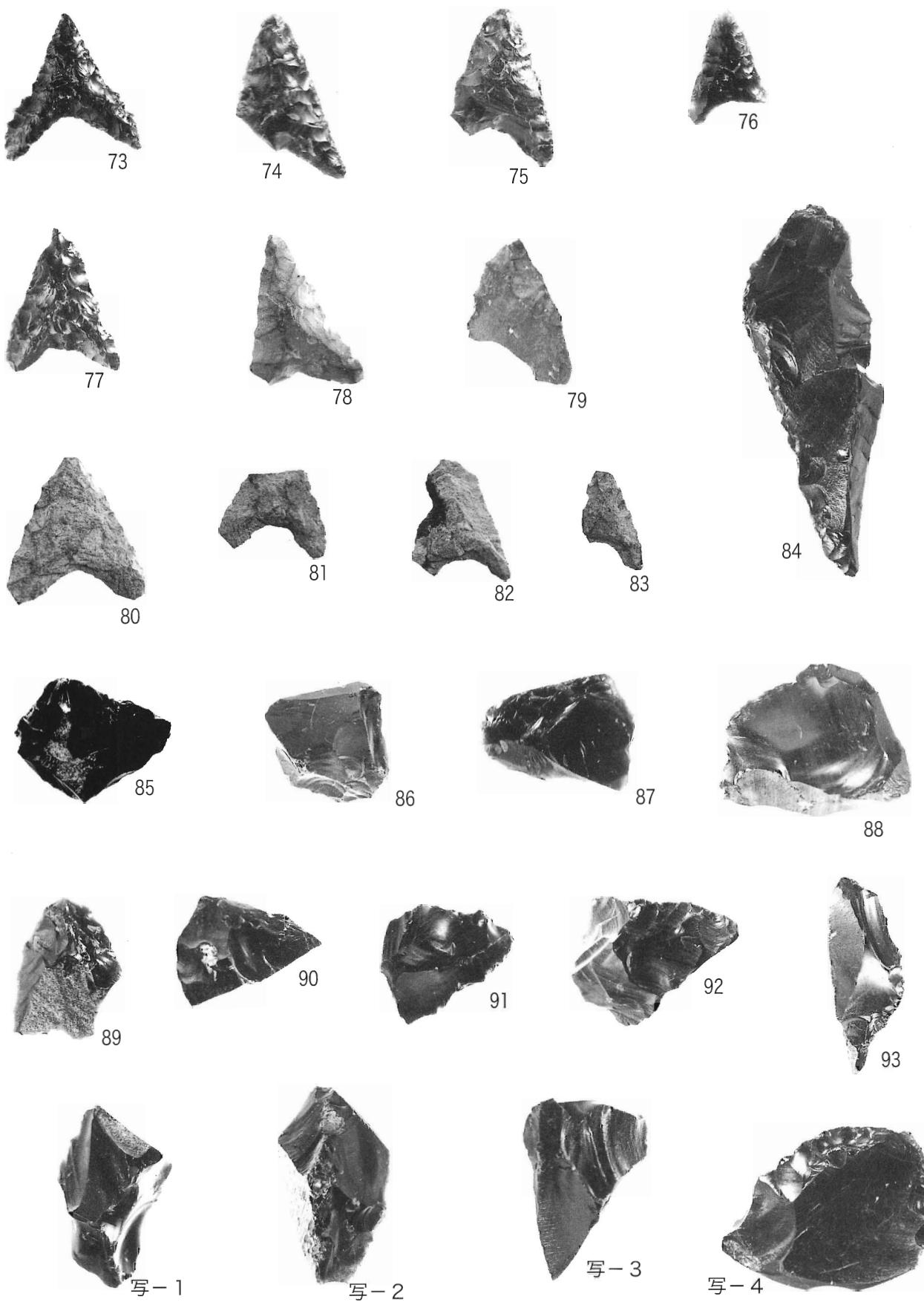
図版 17



2区・2区拡張区 7層出土：57～63
2区・2区拡張区 3層出土：64～72

12 X線写真

図版 18



1区出土：73～79、81～85、90～92、写1～4

2区出土：80、86～89

報 告 書 抄 錄

ふりがな	しょうぶおくいせき							
書名	勝負奥遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	松江市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第101集							
編著者名	瀬古諒子							
編集機関	松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団							
所在地	〒690-8540 島根県松江市末次町86番地 TEL 0852(55) 5294 〒690-0886 島根県松江市母衣町180-21 TEL 0852(28) 2065							
発行年月日	2006年(平成18年)3月10日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村		遺跡番号						
しょうぶおくいせき 勝負奥遺跡	しまねけん 島根県 まつえし 松江市 のしらちょう 乃白町	32201	D-56	35° 59' 26"	132° 10' 04"	2005.4.4 ～ 2005.6.24	560 m ²	土地造成
所取遺跡名	種別	主な時代	主な構造	主な遺物			特記事項	
勝負奥遺跡	住居跡	弥生後期	住居跡	弥生土器(甕)、鉄製品(鉈)				
	散布地	縄文後期		縄文土器、石器(石鏃他)				
		弥生中～後期		弥生土器(壺、甕、器台)				

松江市文化財調査報告書 第101集

勝 負 奥 遺 跡

2006年3月

発行 松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団

印刷 小規模通所授産施設
ピー・ター・パン